

教育委員会第7回定例会議 会議録

- 1 日 時 平成23年7月20日(水)
 開会 13時30分
 休会 17時00分
 平成23年7月27日(水)
 再会 14時00分
 休会 17時10分
 平成23年8月3日(水)
 再会 13時30分
 閉会 17時00分

- 2 会 場 金沢市本庁舎 7階 第1委員会室 (平成23年7月20日)
 金沢市本庁舎 7階 第4委員会室 (平成23年7月27日)
 金沢市本庁舎 7階 第3委員会室 (平成23年8月 3日)

3 出席委員(7名)

- | | | |
|--------|--------|----------------------|
| 教育委員長 | 佐藤 秀紀 | |
| 教育委員 | 早川 芳子 | (平成23年8月3日は13時40分より) |
| ” | 前川 信政 | |
| ” | 柳下 道子 | |
| ” | 岡 能久 | (平成23年8月3日は15時45分まで) |
| ” | 米井 裕一 | |
| ”(教育長) | 浅香 久美子 | |

- | | | |
|-----|--------------------------|------------|
| 事務局 | 教育次長(兼)学校職員課長 | 上林 雅彦 |
| | 学校教育部長 | 平嶋 正実 |
| | (兼)市立工業高等学校教育改革推進室長 | |
| | 教育委員会担当部長(兼)学校指導課長 | 野村 豊 |
| | 教育総務課長 | 浦 世史宏 |
| | | (除く議案第26号) |
| | 教育総務課担当課長(兼)課長補佐 | 高村 政博 |
| | | (除く議案第26号) |
| | 学校指導課担当課長(兼)課長補佐 | 山田 裕 |
| | 学校指導課主席指導主事 | 川口 勝 |
| | | (限る議案第26号) |
| | 学校指導課主席指導主事 | 平澤 晃一 |
| | | (限る議案第26号) |
| | 教育委員会担当部長(兼)市立工業高等学校事務局長 | 奥村 敏郎 |
| | | (除く議案第26号) |
| | 生涯学習部長(兼)生涯学習課長 | 縄 寛敏 |
| | | (除く議案第26号) |
| | 都市政策局担当部長(兼)歴史建造物整備課長 | 野島 宏英 |

文化財保護課長	(除く議案第 2 6 号) 出 越 茂 和
教育委員会担当部長 (兼) 図書館総務課長 (兼) 玉川図書館長 泉野図書館副館長	(除く議案第 2 6 号) 森 田 勝 (除く議案第 2 6 号) 廣 田 康太郎 (除く議案第 2 6 号)
玉川こども図書館副館長	村 田 健 (除く議案第 2 6 号)
金沢海みらい図書館長	石 蔵 茂 幸 (除く議案第 2 6 号)
教育プラザ富樫総括施設長 (兼) 地域教育センター所長 研修相談センター所長	越 田 理 恵 (除く議案第 2 6 号) 山 下 美奈子 (除く議案第 2 6 号)
金沢市立工業高等学校教頭	内 村 博 和 (除く議案第 2 6 号)

金沢市立義務教育諸学校教科用図書採択委員会
委員長

鹿 野 勝 彦
(限る議案第 2 6 号)

副委員長

吉 川 一 義
(限る議案第 2 6 号)

教科用図書調査委員

(限る議案第 2 6 号)

4 案 件

- 非 議案第 2 2 号 金沢市文化財保護審議会への諮問について (文化財保護課)
- 非 議案第 2 3 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会への諮問について
(歴史建造物整備課)
- 非 議案第 2 4 号 平成 2 4 年度使用金沢市立工業高等学校教科用図書採択について
(市立工業高等学校事務局)
- 非 議案第 2 5 号 平成 2 4 年度使用教科用図書 (特別支援学級用教科書) の採択について
(学校指導課)
- 非 議案第 2 6 号 平成 2 4 年度使用教科用図書 (中学校用教科書) の採択について
(学校指導課)
- 報告第 1 2 号 金沢市子どもを育む行動推進委員会委員の委嘱等について (教育総務課)
- 報告第 1 3 号 発達障害支援チームについて (研修相談センター)
- そ の 他
 - (1) 平成 2 3 年度「全市児童生徒ボランティアの日」について
 - (2) 第 3 5 回 (平成 2 3 年度) 金沢市市民大学講座について
 - (3) 次回の定例会議の日程について

5 議事の経過等 以下のとおり

【 7 月 2 0 日 】

佐藤委員長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として米井委員を指名した。本日の議題について佐藤委員長が議案第22号、議案第23号、議案第24号、議案第25号、議案第26号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、報告第12号、第13号、その他(1)(2)(3)について説明があり、質疑応答が行われ、原案どおり可決・承認した。また、8月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。その後、議案第22号、第23号、第24号、第25号、第26号について非公開で審議に入り、議案第22号、第23号、第24号、第25号は原案どおり可決した。議案第26号は、国語、書写、地理、地図について審議し、採択を行い、残りの種目については7月28日の午後に審議することとした。

【7月27日】

第26号について非公開で審議に入り、美術、歴史、公民、数学、保健体育について採択を行い、残りの種目については8月3日の午後に審議することとした。

【8月3日】

第26号について非公開で審議に入り、中学校教科用図書のうち、理科、音楽(一般)、音楽(器楽合奏)、技術、家庭、英語について採択を行った。

* 8月の定例会議の日程：平成23年8月17日(水)13：30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別冊資料等に基づき事務局、金沢市立義務教育教科用図書採択委員会より説明・報告し、承認・採択された。

[主な質疑・応答の内容について]

報告第12号 金沢子どもを育む行動推進委員会委員の委嘱等について(教育総務課)

(説明の概要)子どもの幸せと健やかな成長を図るための社会の役割に関する条例「金沢子ども条例」の規定に基づき設置されている「金沢子どもを育む行動推進委員会」の委員の委嘱及び解嘱を行った。この委員会は、家庭・地域・学校・企業・行政が一体となって、子どもの育成を推進するために設置されているが、同委員会を構成している各団体の役員の変更に伴い、委嘱及び解嘱を行うものである。なお、金沢青年会議所においては、内部組織の名称変更によって、生きる力創造委員会委員長から次世代教育室長に変更となっている。また、NPO 法人子育て生活応援団については、同法人が平成23年4月に解散されたことから、解嘱するものである。新たに委嘱した委員の任期については、前任者の在任期間である平成24年3月31日までとなる。

(特になし)

報告第13号 発達障害支援チームについて(研修相談センター)

(説明の概要)教育プラザ富樫では、これまでも発達障害のあるお子さんを持つご家庭から寄せられるさまざまな相談に、それぞれ専門スタッフが個別に対応し、継続的なサポートを行ってきた。しかし、ニーズの増加と内容が多岐にわたってきたことから、本年度より「発達障害支援チーム」を設置して、これらの支援体制をより明確にしてご案内するとともに、お子さんが所属する保育所・幼稚園・学校から依頼があれば、関係諸機関とタイムリーに連携しながら、専門的な見地から助言と指導を行うこととする。

本チームの構成メンバーは、教育プラザ富樫の相談部門から臨床心理士・社会福祉士・指導主事・保育士・保健師など、児童相談所からケースワーカー、学校指導課から特別支援教育担当者からなり、さらに必要に応じて庁内の福祉業務職員等に参加を求めていく。中心的役割を果たす

発達障害支援コーディネーターには、研修相談センターの臨床心理士を任命する。

チームの具体的な活動内容と役割は、各事例について、発達障害支援コーディネーターを中心に、それぞれの専門的見地から検討を重ね、個々に応じた支援を行う。当該子どもが所属する保育所・幼稚園・小中学校の職員に対して、継続的な相談に応じる。必要に応じて大学関係者や医療機関等と協議し、当該子どもの療育や生活の自立に向けた橋渡しを行う。個々の事例を通じて大学関係者や医療機関等からスーパーバイズを受けることによりチームのスキルアップを図り、関係諸機関と顔の見える連携体制を構築するといったことを考えている。

早川委員

以前は発達障害を隠したいという親の気持ちが治療のスタートを遅らせていましたが、社会の理解が深まってきたことで改善されてきていると聞いていますが、実際はいかがでしょうか。また、子どもたちの間でいじめ等が起こることが心配されますが、一緒に学んでいる子どもたちに対して、このチームはどのように指導していこうと考えておられますか。

越田施設長

最近乳幼児健診において、1.5～3歳のお子さんで少し気になる方を見掛けるようになりました。そういうおさんは、福祉健康センターの保健師が訪問するほか、教育センター富樫の幼児相談室に親子で通所していただいています。そして期間を置いてから医療機関等につなぎ、その後就学指導につなげていきます。教育センター富樫のたくさんの専門スタッフが総力を挙げて対処すると同時に、市内の社会資源と有機的に提携しながら対処する体制を整えています。

また、ご指摘のとおり発達障害のおさんは、二次障害として引きこもりやいじめが起こりがちです。そこで、そういうお子さんを受け入れておられる学校や保育所のスタッフに対し、チームの人間が現場に出向いたり、巡回指導・相談をするようにしています。また、お子さん側からもアクセスしてもらえよう、フリーダイヤルの電話を設けています。

柳下委員

県にも発達支援チームがありますが、金沢市独自の特徴を生かしていただきたいと思います。教育プラザの臨床心理士には優秀な人が多く、児童相談所にもすぐ相談に対応してくれる方がいらっしゃるの、それらの方々を十分活用されることを望んでいますが、そのあたりはいかがでしょうか。

越田施設長

児童相談所と双方で携わるケースもあるので、みんなでケースワークをする体制を整えています。また、私どものスキルアップも大切なので、県とも連携を取りながら、研修会等にも参加する体制でやっていきたいと考えています。

その他(1)平成23年度「全市児童生徒ボランティアの日」について

(説明の概要)平成20年7月28日に発生した浅野川流域の水害では多くの中高生が奉仕活動に取り組んだ。その志を忘れることなく、人と人との絆を大切にすることを育むため、同日を「全市児童生徒ボランティアの日」としているが、今年度もこの日を中心に、市立小中高校の児童・生徒がボランティア活動に取り組むことになっている。活動内容としては、清掃美化活動、リサイクル活動、施設訪問、ふれあい活動が予定されており、町会や地域、あるいは小中学校間や高校と連携した特色のある活動もある。参加人数は、児童・生徒が約3万人、保護者・地域の方が約7000人となっている。

もう一つ、資料にはないが、文科省の全国学力学習状況調査に対する金沢市の対応についてご報告申し上げる。今年度は東日本大震災を受けて、国全体での実施は見送られたが、希望する自治体には問題が配付される。校長会と協議を行った結果、金沢市としては学力向上施策の検証を行う必要があると判断し、9月30日に実施することとなった。

| (特になし)

その他(2)第35回(平成23年度)金沢市市民大学講座について

(説明の概要)本年度の市民大学講座の講師陣が決定した。今回は9月12日の荒川静香さんを皮切りに、渥美公秀さん、山根基世さん、川口淳一郎さん、茂木健一郎さん、岡田恵和さんを講師に招いて計6回開催する。7月12日から電話やインターネットで申し込みを受け付けており、21日から生涯学習課、玉川図書館、泉野図書館、金沢海みらい図書館で受講券の窓口販売を行う。受付開始から1週間で532名の申し込みがあったが、これは昨年同時期の326名を約200名上回っている。今後、より多くの皆さんにご参加いただけるようPRに努めていきたい。

| (特になし)

以 上

会議録署名

教育委員長 _____ 署名

教育委員 _____ 署名

(米井委員)

[以下議案第 22 号から第 26 号まで、会議自体は非公開で行われた。]

議案第 22 号 金沢市文化財保護審議会への諮問について（文化財保護課）

1. 無形民俗文化財 祭礼（信仰）「大野湊神社の夏季大祭」

議案第 23 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会への諮問について（歴史建造物整備課）

1. 金沢市卯辰山麓伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について

議案第 24 号 平成 24 年度使用金沢市立工業高等学校教科用図書採択について（市立工業高等学校事務局）

審議経過、結果ともに省略

議案第 25 号 平成 24 年度使用教科用図書（特別支援学級用教科書）の採択について（学校指導課）

審議経過、結果ともに省略

議案第 26 号 平成 24 年度使用教科用図書（中学校用教科書）の採択について（学校指導課）【7月20日】

（説明の概要）本日は採択委員会から、鹿野勝彦採択委員長と吉川一義採択副委員長が出席されているのでご紹介する。また、本日は種目ごとの調査員の代表の方も別室で控えておられる。

本日の委員会に至る経過について、簡単にご説明申し上げます。別冊資料「金沢市立中学校教科用図書採択の経緯」をご覧ください。5月19日の定例教育委員会議の議決を受け、5月24日に第1回採択委員会、5月30日に第1回調査委員会を開催した。調査委員には教科書を持ち帰って各自で調査研究を進めていただき、6月29日の第2回調査委員会で、それまでの研究をまとめていただいた。24の各中学校では研究委員会を立ち上げて、研究結果をまとめていただいた。

教科書の展示は、各校で1校3日間の巡回展示を行ったほか、教育プラザ富樫、石川県立図書館、石川県教育センターでも行った。これらの展示会では、教育プラザ富樫（一般94名＋教職員11名から134項目のご意見）、各校での巡回展示（一般20名＋教職員699名から58項目）、石川県立図書館（41名から19項目）、石川県教育センター（200名から9項目）と、多くの皆さんからご意見をいただいている。これらすべてを受けて7月13日、16日に採択委員会を開催し、教科書採択に係る答申内容について審議し、本日、答申書をお渡しする運びになった。

それでは金沢市立義務教育諸学校教科用図書採択委員会の鹿野委員長より、金沢市教育委員会の教育委員長に、平成24年度から使用する中学校教科用図書採択についての答申書を提出していただく。

採択委員長

諮問を受け、公平かつ慎重に審議を行い、中学校教科用図書の採択に係る意見の結果をまとめましたので、答申いたします。

教育委員長

委員の皆さま、長い間、中学校教科用図書にかかわる審議をしていただ

き、ありがとうございました。この答申書を受けて審議を進めていきたいと思いますが、その前に答申書の説明と、配付されている資料について、採択委員長に説明をお願いします。

[説明の概要（採択委員長）]

ただ今教育委員長からお話があった2点についてご説明申し上げるが、その前にお手元にある答申書が採択委員会で作成されるまでの経緯について若干お話ししたい。

5月24日の第1回採択委員会の後、第2回までの約50日間で各採択委員は全種目の全教科書、総ページ数約2万6000ページの内容を精査した。1種目について3~5名が詳細に調査した調査委員会の報告、各学校の研究委員会の報告と、各展示場を訪れた市民等からのご意見を参考にしながら、第2回で6種目、第3回で9種目について、合計約12時間の議論を経て答申をまとめた。

参考にした資料は多々あるが、最終的には採択委員会の責任において、調査委員の方への質疑を行い、採択委員会での意見交換を経て、種目別に推薦する教科書を決定した。

各種目の評価を行うにあたっては、採択委員会全体として、次の3点について確認した。まずは生徒の皆さんにとって、最も学びやすい教科書であること。学びやすいというのは分かりやすいということもあるが、自主的に意欲を持って勉強する上で配慮されていることが大切である。2点目は、教えやすい教科書であること。私も吉川副委員長も教員養成に携わる立場であるので、現場には、経験の浅い先生もいることを考慮して、一定の効果を上げるための工夫がよりなされている教科書はどれかという観点から評価を行った。3点目は、教科書の推薦に当たってはあくまで全体を見ることである。評価はどうしても部分的な視点に偏りがちであるが、教科書を推薦する際にはあくまでも全体を見ていく必要がある。種目によっては1冊の場合もあるが、種目によっては、3冊にわたる場合もある。採択委員会としては、そのすべてをトータルに見ていくことを心掛けなければいけない。これら3点を事前に確認し、種目別の討議に入った。

ほかに参考資料が4種類あるので、ご説明する。資料Aは、種目別に3~5名の委員で編成された調査委員会において、採択委員会から提示された八つの観点に基づき、綿密に調査研究を実施して作成した報告書である。八つの観点について、3段階評価をして、それぞれ記述していただいている。縦の欄は調査研究の項目で、横の欄は発行者を発行者番号順に載せている。それぞれのマスの左上に、高い順から「極めて良い」を意味する「きわめて」、「かなり良い」を意味する「かなり」、「おおむね良い」を意味する「おおむね」と評価を記している。すべて検定済み教科書であるので、各者別に見ると「極めて良い」という評価の欄が多ければ多いほど、相対的には評価が高いことを意味する。ただし、これはあくまでも調査委員会の評価であり、採択委員会がそのとおり評価したかどうかは別問題である。

資料Bは、同じく採択委員会の提示した四つの観点に基づき市内24の中学校の教科用図書研究委員会から上がった報告を、教育委員会の事務局でまとめたものである。一番下に積極的な評価が何点あったか記されている。

資料Cは、教科書展示会に寄せられた市民の意見を種目別、発行者別にまとめたものである。これら三つの資料は、採択委員会に参考資料として提出された。

資料Dは、石川県教科用図書選定資料である。これは石川県教育委員会が作成し、教科書採択の指導・助言・援助として金沢市に送付された。

採択委員会では、調査委員会の報告資料A及び資料BCDを参考にしながら、最終的には種目別の評価を採択委員会の責任で取りまとめたとご理解いただきたい。

種目「国語」と「書写」

事務局

採択委員長が国語についてご説明する前に、国語と書写の指導時間の関係について簡単に説明させていただきます。学習指導要領では、書写の指導時間は国語科の授業の中で、1~2年生で年間20時間程度、3年生で10時間程度行うこととなっています。

[国語：説明の概要（採択委員長）]

国語については五つの出版社から教科書が刊行されている。答申書の2番の項目をご覧いただくと、最初に発行者の略称があり、5者の名前が並んでいるが、並び順は発行者番号順であり、評価とは関係ない。東京書籍以下、それぞれの評価を記している。

東京書籍以下5者について、基本的には学年別に編成されているが、三省堂だけは教科書以外に資料編が別冊としてあるので6分冊になっている。

これらを相対的に見て、どこが最も学びやすく教えやすいかということで、結論的に高い評価を得たものが答申書1番の「推薦する発行者」であり、上位に書いてあるものが採択委員会が最も高く評価したものである。

国語では光村図書出版が最高の評価を得た。例えば読む・書く・聞く・話すという四つの観点から見て、国語という教科において身に付けるべき知識や技能が明記されている。そして、どういふことを教えて学んでいくのかがもっとも分かりやすく明示されていることが評価された。

また、金沢スタンダードというものが幾つかの教科で設定されているが、光村の場合、読む・聞くという基本的な能力に加えて、書く・話すという発信する能力についてのつながりが明示されている。例えば「話す」であれば、対話で話す能力から、明確なテーマに基づいてディベートする能力、複数の人を相手にプレゼンテーションする能力まで、1年から3年を通じて発展的・系列的に明示されている。そういうことを生徒自身が主体的に学んでいけるような工夫がされている点を含めて、国語の教科では最も高い評価を与えてもよいのではないかとというのが採択委員会の答申内容である。

次いで、光村ほどではないが、東京書籍が高い評価を得ている。ほかの学校図書も独自の工夫はあるが、例えば教育出版の場合、目次構成上は單元ごとに読む・話す・聞く・書く・伝統文化になっている。これをそのまま頭から順次使っていくことには、調査委員会の委員である現場の先生から疑問の声があがっている。項目別に目的が明示されているのは、ある意味でやりやすいかもしれないが、学年の進行との関係を考えて場合には疑問が生じる。このようにさまざまな点から評価した結果、光村図書出版の評価が一番高く、東京書籍がそれに次ぐ評価となった。

[国語：質疑応答]

教育委員

この2者の教科書を読ませていただいたところ、それぞれに良さがありましたが、似ている部分もたくさんあるように思いました。二つとも言語の四つの能力を同時に高めていくためのプログラムが、とてもうまく組まれています。特に東京書籍の教科書には、あさのあつこさんのように話題性のある方の作品が載っていて、とても楽しかったです。それでも光村図書がいいと思われる点について、教えていただけますか。

また、音読に関しては教科書にCDが付いていけば、生徒たちは自分で聞いて練習することができます。もちろん先生が読んでくださればよいのですが、それが難しいとなれば、CDは音として日本語を楽しむことができる有効な手段であると思います。CDの利用や日本語の発音を大切にすることなどは、どうなっているのでしょうか。

採択委員長

おっしゃるよう二者ともよく似ています。特に発信能力に関しては、両方ともコラムのようなものがありますし、グループディスカッション、プレゼンテーション、スピーチを行う課題は、全部の会社にあります。その中で、会話での発信能力を1~3年並べて抜書きすると、光村図書が系統的にうまくできていると評価されました。

音読に関しては、教師用の指導書もあるはずですが、現物がないので、評価の対象にしていません。教科書本体だけで評価しました。

教育長

東京書籍の方では話題性のある作家内容という話が出ましたが、発行者が

出している趣意書を見ると、光村は「質の高い読むこと教材」とあります。最近の子どもたちはなかなか読まないの、いい読み物を読んでほしいのですが、教材の質といった点ではいかがでしょうか。話題性があるという部分では東京書籍さんの名前が出ていましたが、光村の教材の質の話は出ましたか。

採択委員長

どこの会社でも読む素材は相当豊富に取り上げられているので、特にその中で、差異化できるという話は、採択委員会では出ていません。

教育委員

光村の3年生の教科書だったと思いますが、「句会を開いてみよう」というページがあって、随分面白いと思いました。実際に短冊型の紙に書いてみんなで回すといったような本来の句会をまねてみるなどは、これまでもあったのでしょうか。

採択委員長

そこまでの比較は、今回はしていません。教科にもよりますが、新学習指導要領との関係で内容は、相当更新されていて、理科などは全体の構成が変わってしまっています。国語や英語に関しては、時間数が増えたことによる影響の話は出ましたが、現場でも平成24年度から新学習指導要領に基づいた時間配当で行われるので、今までと若干変わってくると思います。そういう意味で、前回との比較は特にしていません。

事務局

今のご質問についてですが、これまで「句会を開いてみよう」というような項目は、教科書になかったと聞いています。

教育委員

すべての教科書を拝見しましたが、これら二つの教科書は、教える側が時間的に余裕のある状況で授業を進めていけるのかという視点からの検討はされたのでしょうか。

採択委員長

今回、新しい時間配当になったこともあり、今回のものでの実績はありません。先生方も取舍選択しながらやっていかれるだろうと思いますが、相当分厚くなったので、1~2年は時間配当が難しいだろうという議論は少しあったと思いますが、比較まではしていません。

教育委員

いずれにしても実際に教えていく上で、先生方はこれから工夫していかなければいけないわけですが、そういう意味でも教科書としてしっかり最初から流れを追って授業をしていくことが大事だと思います。

教育委員

久しぶりに中学校の教科書を拝見しましたが、生徒が見るためのものか、先生の指導用なのか迷うほど細かく書かれていて驚きました。その中で光村のものは、結構丁寧に書かれているようですが、そういうことも評価の対象になっているのでしょうか。

採択委員長

おっしゃるとおり、かなり重視しました。光村図書はかなり細かく書いてある教科書だと思いますが、これを使いこなせる生徒は、比率で言えばそんなに高くないかもしれません。ベテランの先生であれば、ご自分で判断していかれるでしょうが、これは比較的経験の浅い先生でも指導しやすいように配慮されています。特に学習指導要領の改訂等の条件を考えると、指導しやすさは評価の上では大事な視点の一つとしてきました。

教育委員

それから先ほど委員が言われたように、これだけのことを生徒が1年間でどれだけ理解してくれるだろうかと感じました。

事務局

今ほど指導時間についてのご質問がありましたが、今回の学習指導要領の

改訂によって、国語は2年生で授業時数が増えています。従って、指導の中で困るという状況はあまりないだろうと聞いています。

教育委員

私は国語が一番大切だと思っています。拝読していてもいずれも、国語は内容が充実したことが書かれていました。これらのことを十二分に理解することが出来れば、立派な人間になれるのではないかと思います。

教育委員

文法のことですが、光村は文法を後ろにまとめてあります。教えるときには、文法をまとめて教えるのですか。それともそれぞれの文章の中で教えるのでしょうか。

国語調査委員

文法の学習は、主に教科書に従って行っています。問題も出ているので問題を解き、それから本文に戻って学習することもあります。最後にまとめて書いてありますが、文法を体系的にやっているので、「文法はまとめるこんな形になる」ということが後半にあることで、前に学習したことを振り返って、今の学習に生かせるという形になっています。

教育委員

私も光村はよくできていると思いました。先ほど「話す」ということが段階を追ってつなげてあるというお話がありましたが、昔の教科書には「話す」、「書き方」を発信するものがなかったように記憶しています。そういう意味では非常に先進的な感じがします。

私は日本語の文章を読み取る読解力も大事だと思うので、その点に関して優れた点があるなら、事例を示していただければ分かりやすいのですが。

国語調査委員

3年生の教科書では、最初に「握手」という井上ひさしさんの文章があります。ここでは学習として、「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えを持とう」というように、段階を追って力が付くように工夫されています。

また、「次につなげよう」ということで、読解がこの教材だけで終わるのではなく、小説を学習する等、次につながっているので、読解力は付いていくと思っています。

教育委員

ほかの出版社と比べて優れているということなのか、この辺は同等なのか、どのようにして結論に至ったのでしょうか。

国語調査委員

ほかの会社も同じように進めていますが、光村は特に「次につなげよう」というところがあって、読解の学習も1回きりではなく、次々続いていくように意識されている点で優れていると思います。

教育委員

これは私の個人的な見解ですが、光村に出ている作家は割と地味ですね。子どもたちがついてくるかなと思います。その辺は先生方の力量というか、教科書だけではなく、授業として次につなげるというか、引き留める努力が必要になるような気がしました。

極端なことを申し上げると、学校図書のものは分厚くて多すぎると思うぐらい、いろいろなものが入っています。量が多いと使いづらいだろうということは推測できますが、片や光村は質が高いけれど、あまり子どもたちにはなじみのない名前が多いことを考えると、魅力ある授業にするのは大変な気がします。あまりそういうことはお考えにならないのでしょうか。

国語調査委員

私は光村が特別地味とは思っていません。例えば井上ひさしさんの文章はほかの教科書にも載っていますし、浅田次郎さんなどは今知っておいたらいいと思います。森鷗外や夏目漱石といった文豪も載っているので、内容的には面白いものがあると私は思っています。

教育委員	取り上げられている作家は、これで十分ということでしょうか。
国語調査委員	そうですね。さらに本の紹介のページが非常に充実していると思います。学校でする部分、図書館を利用する部分がありますし、本の紹介も内容が書かれていて、子どもたちにとってはよいのではないかと思います。
採択委員長	学校図書のもは量的に厚いのですが、これだけ判型が小さいのです。活字の大きさはそんなに変わらないので、中に入っている文章量は、厚いからといって多いわけではないです。判型の大きさについては少し議論がありました。大きな問題とはなっていません。

[書写：説明の概要（採択委員長）]

書写は6者から出版されている。その中で相対的に比較すると、光村図書出版の評価が最も高く、東京書籍、教育出版の順で続いている。6者のうち、光村だけが3年間を通じて1冊である。これがどれほど意味があるかという議論も若干あったが、それはそれとして、学年ごとに分冊になっているもので、学年進行的にどういう部分を、いつ、どういう順番で扱っていくかを見た場合、分かりにくい出版社が2者あった。そんな中で光村図書は発達の段階が考慮されており、いつ何をすればよいか分かりやすかった。

書写という種目は国語の一部であり、独立した教科書ではない。国語の一部という受け止め方をどれだけできるのか、硬筆と毛筆の関係がどうなっているか。ただ、「基礎から活用へ」とあるが、基礎とはどちらであるかを確認すると、その流れとしては毛筆から硬筆になっている。毛筆で筆遣いや筆順を確認した上で硬筆に入っていくという流れがはっきり出ているという点では、ここに挙げた3者が、学びやすく、教えやすく、分かりやすい教科書ではないかという意見が議論の中で出た。

3者の中では、実は教育出版の本は調査委員会の評価があまり高くなかったが、採択委員の中では「毛筆を扱う場合の技術的な部分の指導が適切である」と評価する意見があった。書に向かうときの姿勢を含めた技術的な指導で最も評価が高かったのは教育出版だったが、総合的に教科書として見た場合には、光村が最も評価が高く、次が東京書籍と教育出版ということである。

[書写：質疑応答]

教育委員	国語の教科書と同じ会社がよいということはありませんか。
採択委員長	その点についても議論が出ましたが、現場の声としては、特別にその必要はないと伺っています。
教育委員	東京書籍の2~3年用の10ページに、私たちが書写で使う用具がどのようにして作られるのかが載っており、とても興味深く拝見しましたが、光村には見つかりませんでした。鉛筆のように、身の回りにいつもあふれているものの作り方をあらためて教えているのはすばらしいと思いました。和紙があって墨があったから、日本には古い時代の記録が残っているのであって、西洋の紙にインクで書いたものは早く色あせてしまうことも書かれていて、これだけで私は東京書籍を勧めたいと思うほどです。光村にも何か「おっ」と言うような箇所があったのでしょうか。
採択委員長	教科書はそれぞれ工夫されているので、それぞれいい点があるはず。この部分があるから、これを推薦すべきではないか」という議論は、特になかったように思います。
教育委員長	学校訪問で実際に教育現場に行くと、書写の時間の筆の持ち方や書き方は、われわれから見るときちんとしていないように感じます。教科書では

しっかり持ちなさいと書いてあるにもかかわらず、現場ではそういう指導はされていないような感じがするのです。採択に当たって、現場と教科書とのずれに関して、何か議論はありましたか。

採択委員長

その辺の議論は採択委員会でも出ましたが、それは教科書の評価には直接結び付かないわけです。教科書として、国語という教科との関係で、その辺をきちんと系統的に書いてあるのはどれかという点でまとめるしかなかったというのが正直なところです。

事務局

筆の持ち方や姿勢について中学で問題になるとすれば、小学校での指導が十分ではなかったということも考えられます。小学校でも正しい姿勢や筆の持ち方は教えますが、そういうことを常に意識しながら、継続して指導が進められるよう、学校に指導していきたいと考えています。

教育委員長

ほかに質問がないようでしたら、これから採択に移りたいと思いますので、採択委員、調査委員の方はご退席をお願いします。

(採択委員、調査委員 退席)

[国語：審議]

教育委員長

国語、書写の採択委員会からの結論及び、それに対する説明をしていただきましたが、まずは国語について採択を行いたいと思います。採択委員会からの推薦を考慮に入れながら、委員の皆さんのご意見を聞かせていただければと思います。

教育委員

光村は写真がすごくきれいで、絵も厳選されていて、季節感にあふれているように思います。私たち大人が美しく楽しいと感じるだけで教科書として選ぶということがいいのか少しだけ心配です。その点では新鮮な書き手を選んでいる東京書籍の方がよいのかもかもしれませんね。

教育委員

私も今の光村の写真がきれいという意見に同じです。特に「源氏物語」の絵図が本当に美しく、私も読ませていただきたいと思ったほどです。

教育委員長

読みたくなるというのは一つの要素だと思いますが、ほかに推薦するというご意見はありますか。

教育委員

採択委員会からの推薦どおり、光村図書がよいと思います。基本的な部分が丁寧に書いてある。先ほど読み物が地味な気がすると申し上げましたが、たくさん入れても仕方がないので、それを題材に日本語がどんなものであるかを教えるガイドとしては非常に丁寧にできているように思います。東京書籍も同様の方針なのだろうと思いますが、光村の方が少し丁寧で分かりやすいので、私も光村を推薦します。

教育委員

皆さんがおっしゃっているとおり、私も光村がいいと思います。さりとして東京書籍も捨てがたいものがあるような気がしますが、先生方が教えやすいかどうかといった点については、何と言っても教える側の先生方のご意見を重視したいと思います。私は光村図書で賛成です。

教育長

先ほどのご意見のとおり、国語は大変、大事だと思っている。どの教科も教科書を読めるからこそで、ベースに国語がある。東京書籍も良いところ、光るところがあったのですが、光村は連続性、統一性のある構成になっていて、それが全学年の始めに分かりやすく表示してあります。また、季節のしおりが1年生から3年生まで全部に入っていたり、巻末にいろいろ

るな色の言葉があるなど伝統的な趣があります。日本の言葉の文化をじっくりと子どもたちに教えていきたいと思います。もし光村になった場合、先生方にそのこのところをどのように教えていただけるのか、あるいは子どもたちにもどのように活用してもらえると感ずるところはありますが、全体としてよくできた作りではないかと思ひます。

教育委員

光村図書は、学習を進めていく上で、教科書に沿ってやっていけばやりやすいだろうという、教える立場からもよく書かれていたと思ひました。また、次につなげるためにどうやって生かしていくかが一番大切なことだと感ずました。

私は国語が好きなので、伝統的な色を感性としてきちんと身に付けるということを国語でしていただけることを、ありがたく感ずました。

教育委員長

私も光村の教科書はかなり統一的な構成、あるいは指導がしっかりされており、丁寧に書かれていたと思ひます。それから全体的なつながり、すなわち学年間、あるいは小学校から中学校へのつながりにも配慮されています。また、習得したものを活用するための配慮がなされていると思ひます。学んだら何ができるようになるのかを明確に示し、それによって学習意欲を駆り立てるような点が見られます。

古典との関係でも素晴らしい図や絵が多いですし、古い日本の伝統的なものへの配慮もなされているという点からも、光村はいいように思ひました。

東京書籍のものは、目次の構成が分かりづらいことから、全体的な構成がしっかりしていないような感ずを受けます。ただし作品については、正直、こちらの方が魅力的なものが多かったです。しかし、それも調査委員の説明では、指導を進めていく上では十分だというお話でしたから、私も光村を推すことにします。

皆さんのご意見をお聞きした結果、国語としては光村図書出版のものを採択するというところでよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

[書写：審議]

教育委員長

次に書写についてご意見を伺いたいたと思ひます。光村は1～3年生で1冊ということですが、内容的に教育情報はこれだけで十分だという判断なのでしょう。1冊なので、統一性があるでしょうし、中学全体でどのような順序で、何を学んでいくかという方向が明確になっていると思ひます。

また、「考えよう」「知ろう」「振り返ろう」「確かめよう」と記述されており、ポイントの指示が適切であると思ひます。書写の活用についても、なぜ書写を学ぶのかということに関する説明はどの教科書にもありません。その辺を書いてほしいという気はしますが、活用の方法としては書かれているので、習う意味を理解することができるのではないかと思ひます。

1年生では「自分の文字を見つめてみよう」とありますが、自分が書いている文字を見つめて直すことで、「もう少しきれいに書こう」「内容を吟味して書こう」と、何か文字に対して関心や意欲が出てくるのであれば、面白いポイントだという感ずを持ちました。

教育委員

確かに光村の方が丁寧に字の書き方等を進めているように思ひます。

できれば、私ども社会に出ている者にとっては、手紙の書き方や送り状の書き方等はすごく大切だと思うので、このあたりについては練習してもらいたいたと思ひています。

教育委員

東京書籍は「書ききれなくなったらどうしましょう」とか、目次を見て

いると、なかなか面白いです。荷物の送り状では「書ききれなくなったら、何文字入るかをよく見て、もう一度最初からやり直しましょう」とあり、面白いなと思いました。また、用具の出来方の記述も面白くて、なかなか捨てがたいです。まとまっていて読みやすく、資料としてコツのようなものが全部入っているとなると「こちらの方が使いやすいのかな」と思ったりします。ただ、東京書籍もなかなか良い教科書だとは思いますが、光村は1冊というのが使いやすくいいですね。二つとも、なかなか捨てがたいと思います。

教育委員 光村は基本に非常に忠実で、シンプルでバランスが取れていると思います。

段階を追って進み、最後に資料集があるという形で、いわゆる字を書くことに徹底しているスタイルが見受けられますし、時数があまり取れないということであれば、1冊で済むということもあって、光村が使いやすいのではないかという感じを受けました。

教育委員 私のような書写嫌いを作らないという意味では甲乙付けがたいと思います。しかし、やはり光村は1冊にまとまっていて、3年間を見通した形で学べて、書写というものを身近に感じてもらえそうですし、教えやすい教科書だということで、私は光村でいいと思います。

教育委員 光村は字体がニュートラルで、子どもたちがお手本にして書くには、とても上品でいいと思いました。

教育委員 皆さんと同じです。光村の資料はコンパクトで分かりやすく説明してあるので、いいのではないかと思います。

教育委員長 ご意見を伺いましたが、多くの方が光村図書出版がいいのではないかといいことでした。書写の採択では光村図書出版のものを採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同 異議なし。

教育委員長 どうもありがとうございます。それでは確認いたします。国語は光村図書出版、書写も光村図書出版のものを採択したいと思います。

種目「社会（地理的分野）」と「地図」

事務局 採択委員長から説明を受ける前に、事務局から社会科で何年生がどの種目を学ぶのか、地図ではどのような点に配慮するように学習指導要領に書かれているかということについて少し説明させていただきます。

中学の社会科では地理、歴史、公民の3冊の教科書があります。1年生と2年生で地理と歴史の教科書を使い、3年生では歴史と公民の教科書を使います。地図については、社会科の指導全般にわたって、地図を読んだり、地図を作成するといった活動での使用が、学習指導要領に明記されています。

[地理：説明の概要（採択委員長）]

地理の教科書は4者から出ており、最も評価が高かったのが東京書籍の教科書、次いで評価が高かったのが日本文教出版の教科書である。

東京書籍は判型が大きい。それ自体は内容にかかわらず、結果としてさまざまな資料が見やすく、豊富になっている。また、地理や歴史は暗記科目のような誤解を受けているが、現実にはそうではなく、例えば地理であれば資料を見て、その地域がどういうところに立地しているか

を把握した上で、自分で考えていく能力を養う科目である。そういう意味では、東京書籍の教科書は資料が豊富で、相互の連関についても各ページに関係するページが指示されている。優秀な生徒でなければ使いこなせないかもしれないが、先生方が教えていく上でも使いやすいだろう。また、作業課題が具体的に表記されていたり、振り返りで基礎や基本が定着するように工夫されている。

日本文教出版も、具体的な資料が豊富に挙げられている点が評価された。また、副次的なことではあるが、写真や図版の鮮明度という点でも、この2者は高い評価を得た。

以上のことから、採択委員会としては、特に高く評価した教科書として東京書籍、次に日本文教出版を答申するものである。

[地理：質疑応答]

採択委員長

若干補足すると、例えば北陸や関西といった身近な素材がどのくらい扱われているかということも話題になりました。生徒が自分たちの地域に関心を持ち、そこから知識や意識を発展させていく取り掛かりとして、身近な素材は大事だろうということです。ただ、金沢の場合は教科書に取り上げられていることも大事ですが、副読本が小学校の時点でわたっていますし、学校にも金沢や石川を扱った教材が相当豊富に配置されています。もちろん教科書に扱われているのは、いいことですが、ほかの教材も相当豊富にあるので、それだけでは決定的な理由にはならないという議論がありました。

教育長

各論になってしまいますが、金沢や北陸について、丁寧に扱っているのはどこだったのでしょうか。

採択委員長

地域別の説明は地理の基本的事項なので、あまり差はないと思います。地図ではそのあたりに差が出てきますが、教科書ではあまり、私自身は気づきませんでした。

事務局

今のご質問に対して、調査委員から少しお話をさせていただきます。

地理調査委員

特に金沢を項立てしている部分についてお話しします。一つは日本文教出版の229ページで、「金沢箔」ということで金沢を重点的に取り上げています。教育出版の204ページにも城下町としての金沢市が紹介されています。また、伝統工芸については、そのほかの会社も取り上げています。帝国書院は215ページの地図の中で「北陸の産業と雪のかかわり」ということで、地場産業という形で説明しています。東京書籍は195ページに「雪国で育った伝統産業」として地場産業が紹介されています。

採択委員長

地理では日本の各地域を扱っていきますから、その中でこういうものが出てくるという程度です。差があるという感じではとらえていません。

教育委員

竹島の扱いは、それぞれの教科書で若干温度差があるように思いますが、どのようにお考えか聞かせてください。

採択委員長

温度差というところまでは把握していませんが、領土の問題は北方領土、竹島、尖閣諸島の問題まで、それぞれの教科書で記載されています。

教育委員長

委員会の中では、特にそのことについての議論はなかったのですか。

採択委員長

特に差異があるという議論は出ていません。

事務局

事務局から付け加えさせていただくと、竹島については4者すべてが取り

上げています。

教育委員

推薦された東京書籍と日本文教出版には、「調べる」ということが学習の中にあります。特に東京書籍はかなり詳しく書かれているなと思って見ましたが、実際に授業を進める上で、地理の時間で調べるといのは、生徒たちにとってどのくらい重要なのか、あるいはその辺の議論はあったのでしょうか。

採択委員長

調べるという活動がどれくらいなされているかは把握していませんが、学校や先生によっても違うと思います。教科書としては、身近なところから始まって、身の回りの地域をどのように認識していくかということをしていき、その上で地域の特徴を自分たちで調べながら把握していくといったプロセスを丁寧に説明している点で、東京書籍の評価が高かったということは申し上げられますが、現場でのことは採択委員会の範囲を超えるので、事務局が把握しておられるようであれば、お願いしたいと思います。

事務局

今のご質問について、調査委員から少し説明をさせていただきます。

地理調査委員

新しい教科書には「身近な地域」というページがあります。東京書籍は233 ページです。「身近な地域」の調査についてはどの者でも扱っていますが、特に東京書籍は先に手順を示し、系統立てて記載されています。基本的に授業は教科書と金沢の地形図を使いながら、学校の付近を調べていくという形で行われており、時間は10時間程度です。

教育委員

委員会の議論の中で、世界の災害の現状や日本の災害の現状、原子力発電所についての記述について何か話し合われましたか。もちろんこの教科書は3月11日の前に作られたので、東日本の災害については載っていませんが、地震・津波・原発事故の扱いについて何かご意見は出たでしょうか。

採択委員長

私も驚いたのですが、5月後半に受け取った教科書で、3月11日の震災の写真や記述が入っていたものがありました。公民だったかもしれませんが、取り込もうと思えば、できるようです。ただ、それをどのように教えるべきか、学習指導要領として定着させていくような課題にまで、なかなかないということで、調査委員の方から「扱いに悩むところがある」という発言があったことを記憶しています。

原発の問題だけではなく、温暖化や環境に関するさまざまな問題は、私も気を付けて見たつもりですが、学習指導要領でも独立した項目として入っているので、各者とも割合丁寧に扱っていました。

何が取り上げられているかということでは、各者において各個別の項目の有無はありますが、全体としては、今日的な課題についての姿勢にそれほど大きな差はないというのが採択委員会の考え方です。

事務局

今のご質問に少し付け加えをさせていただきます。東日本大震災にかかわるものは、3月11日ということですので、直接載せている教科書はありませんが、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震といった震災については、4者いずれも取り上げています。

教育委員

原発のことに關しては、エネルギーや環境の問題として、各者の内容を一応精査した上で、それほど差はないという結論を出されたと理解してよろしいのでしょうか。

採択委員長

原発についてはそのとおりだと思います。震災はともかく、その後の展開も含めて教科書として、今の段階で扱うには非常に難しい問題だと思います。

が、電力を供給する上でどのくらい原子力に依存しているのかということや、それが一定の課題を抱えているということが書かれており、その範囲においてはあまり差がないということです。

ただ、それでいいのかどうか。恐らくこれから現場での扱いが非常に難しくなると思います。現在、そこまで踏み込んだものはありません。

教育委員

そうすると、いずれの教科書を採択したとしても、この問題については、これからもいろいろな形で文科省から示されるのでしょうか、そこに委ねると理解してよいのでしょうか。リスクの問題等、子どもたちも目の当たりにしているわけですから、教科書は別にした形で教える際に対応していこうということであれば、かなり難しいと思います。

採択委員長

これは教育委員会にお考えいただくのだらうと思いますが、当面教科書としては、時間的な問題も含めて入っていませんし、おっしゃるとおりだと思います。

事務局

今の件、エネルギー問題にかかわることで、各者の内容等でどういったことが書かれているのか、調査委員が調べたものがありますので、調査委員から報告させていただきます。

地理調査委員

エネルギーに関しては、学習指導要領でも取り上げています。それに伴い、4者とも原発、新しいエネルギーについての記述があり、調査委員会でも討議させていただきました。

事務局

事務局から付け加えさせていただきます。東日本大震災にかかわるということで原発のことが話題になっていますが、原発にかかわる新しい指導資料が近く文部科学省から送付されると聞いていますので、それが学校現場で使われるようになっていくと考えています。

教育委員

先ほども領土の話が出ましたが、尖閣諸島について書かれているのは日本文教出版の1者だけのはずですが、この辺は重要視されたのか、されなかったのか。伺っていると、今はそこまで突っ込んで表記しなくてもよいという判断なのか。そういう議論には至らなかったのか。その辺を教えていただきたいと思います。

採択委員長

採択委員会としては、特にそこで議論したことはありません。私は四つの教科書を索引から見ていったのですが、領土については、沖ノ鳥島はどうかとか、細かく見れば4者で若干の差はありますが、それは教科書を選ぶ際の決定的な差にはならないだろうと判断しました。

事務局

尖閣諸島については日本文教出版、教育出版、帝国書院が取り上げています。また、国家間の問題については、学習指導要領では平和的な手段により解決に向けて努力していること、国際社会において日本以外の組織が活動しているといったことも、学習の中で取り上げることになっています。

教育委員長

それでは、地理についての質問はこれで終わりとさせていただきます。次に地図についての説明をお願いしたいと思います。

[地図：説明の概要（採択委員長）]

地図は東京書籍と帝国書院の2者から出版されている。東京書籍は教科書はワイド判を使っているが、地図は普通のサイズである。帝国書院は逆で、教科書は普通判で、地図がワイド判となっている。地図なので図版としての地図が中心だが、資料集という性格もある。実際には、特定

の時間に地図だけで授業をすることはなく、地理を中心に社会科の他の分野やその他の教科で、教科書と並行して使うものとして理解している。

両者を比較すると、ワイド判ということもあって、帝国書院の方が図版資料が豊富で見やすい。特に地図では、見やすいということは視覚的な意味で重要である。

2 番目として、資料の出所の問題がある。現実には生徒がそれを気にすることは少ないかもしれないが、資料出所をきちんと明示されていることは大切である。東京書籍は出所が明示されていないグラフが結構あるので、その点でも帝国書院の方が優れており、推薦させていただいた。

[地図：質疑応答]

教育委員

地図というものは、地理と同じ者で共通した部分、あるいは関連した部分がありますが、それを含めて考えても帝国書院の方がいいということですね。要するに会社が違うことによる齟齬はないかということですよ。

採択委員長

まず、地図だけを独立して使うことはないだろうと考えています。教科内容との関係では、恐らくその点は心配ないと判断しました。資料集としては当然地理で使いますし、社会科のほかの分野でも使うことがあると思いますが、その点で別の出版社のものを使うことによる不自由があるとは考えませんでした。

教育委員

帝国書院の最初の数ページは地図ですから、地形図に決まっていますが、9 番に世界の地形、その次に気候、その次に環境問題の順です。このページだけでも、とても今の時代に即しているなど、最初に地図帳を開いたときに思いました。気候が随分変わってきて、大きな氷河が消えつつあり、河川が年中河川ではなく季節河川になってしまっているなど、現在とても深刻な問題になっています。以前の判の帝国書院の地図では、アラル海で船が取り残されている写真が出ていましたが、今回の 2009 年 8 月の写真では、湖底が出てしまっている最新の写真が載っています。本当に up to date です。世界の問題を扱う順序がいいといった議論はあったでしょうか。

採択委員長

環境問題については、本来ならば教科書で扱うものであって、資料集はそれを裏付けるものとしてどういう資料が出ているかということだと思います。東京書籍も折り込みで人口問題との関係で環境問題が出ていますが、扱いとしては似たような扱いになっています。ただ、判が大きいということもあって、非常に説得力があり、きれいに表現されているという点では、帝国書院の方を高く評価しました。

先ほどの地理では、日本中を扱う中で北陸や金沢が出てきましたが、帝国書院の方は 7~8 ページに「地域の特色をとらえるポイント」とあるので、使いやすいかも知れません。日本のどこを事例にしてもいいのですが、たまたま北陸が事例になっているので、金沢で使うのであればメリットと言えるかもしれません。

教育委員長

特にご質問がなければ、採択に移りたいと思います。採択委員の皆さんには一度ご退席をお願いします。

(採択委員、調査委員 退席)

[地理：審議]

教育委員長

地理と地図の採択に移ります。まず地理の採択について、ご意見をどうぞ。

教育委員

採択委員会からのご提案どおり、東京書籍は大変見やすくきれいです。日本文教出版は写真が古くて、印刷がちょっと劣っているように感じます。

また、伝統工芸の扱いが丁寧なようで、実は古いような気がします。伝統工芸はその地域に根ざしたのですが、伝統工芸の技術をベースに新しく発展しようとしている姿についてはあまり書かれていません。古いものをそのまま写して載せている気がするので、私は東京書籍の方がいいと思います。

教育委員

東京書籍のスキルアップのコーナーがとても面白いです。例えば「41のCの5はどうやって探すのか」というような、とても基本的なことが載っているかと思えば、31ページには写真の読み取り方として、「この写真からどんなことが分かるか」ということを教えています。それがずっとシリーズで続いているのですが、自分が気付かない指摘もあって、とてもいいと思いました。この点だけでこの本を推すわけではありませんが、とても分かりやすいです。「どうして」とか「何が」とか、どの本もそのように問いかけてくるのですが、東京書籍は納得のいく問いかけをしてくれていることと、資料がたくさんあるという点で推したいと思います。

また、子どもたちが一番興味があるのは食べ物です。それをとても上手に使って、「チョコレートは甘いけれど、大変過酷な労働を強いられている」というように、世界のおいしい食べ物のバックグラウンドについて説明しています。食べ物から入っている点がいいと思いました。

教育委員

全般的に東京書籍の方が、判が大きいので見やすいですし、地図やグラフも丁寧です。全体の編集の仕方はそんなに変わらないと思いますが、細かく見ると、先ほど採択委員長がおっしゃったように、出典がほぼ網羅されているので、信用できるのかなという気がしました。

もう1点は、質問の中でも言った「調査をしよう」です。単なる資料集というより、100ページ辺りからずっと手順を追って書かれていて、テーマの見つけ方、背景を把握したり、インターネットの使い方というように、細かくガイドラインが示してあります。この辺はほかの教科書と比べても結構丁寧ですし、一番感心したところです。

また、尖閣諸島の話詳しく取り上げているのは日本文教出版の1者だけでした。領土の話は授業で言うには微妙なので、マストではないと思いますが、避けてはいけないという気もします。中学生ぐらいになると「領土とは何か」ということを教えるに当たって、この辺をどのように扱っていくのかというのは、ある程度先生方に見識がないと追いつかないのではないかと思います。教科書としては東京書籍を推薦しますが、その辺のことをほかの3者がくわしく書いていないのは、ちょっと残念です。

教育委員

私も東京書籍を推薦したいと思います。環境問題を非常に丁寧に扱っていることと、世界から見た日本を丁寧に書いてあり、そのあたりが魅力的な本だと思いました。

教育長

東京書籍の159ページに「日本の諸地域」とありますが、本年度の学習指導要領から各地域をいろいろな観点から見ていくということが入りました。各地域ごとに何の視点が明確に書いてあっていいと思いましたし、全体的に東京書籍は資料の活用等でもいいのかなと思いました。

ただし、私が気になったのは、先ほど調査委員会では「金沢に関する取り扱い、みんな同じだ」と言われましたが、東京書籍では金沢や北陸についてあまり記載がありません。もちろん社会科副読本『のびゆく金沢』も作ったので、子どもたちは勉強できますが、日本の中の金沢、世界の中の金沢という視点で、金沢市が作った本で学ぶのではなく、そういう視点を入れたことを授業ではやっていただきたいと思います。全体としては、東京書籍の方がいろいろ活用できるのではないかと思います。

日文の方は、岩手県宮古市の大堤防が入っていたり、青森県のウラン処理工場の写真もありました。これはたまたまだったと思いますが、東日本大震

災を受け、地震、津波、原発問題などのエネルギー問題については、いろいろな角度から子どもたちに伝えていかなければいけないと思いました。

教育委員長

私も東京書籍は判が大きいこともあり、かなり丁寧に書かれていて、分かりやすく、見やすい、資料が多い等の特色を持っていると思います。

また、各場所でポイントが指摘されていて、「スキルアップ」「地理にアクセス」などを読んでいくと、かなり面白いテーマだったりしていて、この辺もなかなかいいと思いました。

ただ、なぜ地理を学ぶのかということについては、どの本にも詳細に書かれていないと感じました。できればそういうものが最初にあってほしいと思いました。

一つ感心したのは、東京書籍の第1編の「世界のさまざまな地域」に地球が写っていて、なぜこのような観点から見るのかということが書かれていたことです。できればこういう視点が、「なぜ地理を学ぶのか」というところでもあってほしいという感じはしました。

また、日本では人口問題はかなり大きな問題ですが、東京書籍では高齢化率がグラフとして載っておらず、絶対人口しか書かれていませんでした。問題点の指摘としては、高齢化率が非常に重要だと思うのですが、日文にはあって、東京書籍には載っていないのは残念です。しかし、全体的に見ると東京書籍の方が適切であるという感じはします。

それでは、地理では東京書籍の教科書を採択したいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

[地図：審議]

教育委員長

それでは地図についてご意見を伺いたいと思います。

教育委員

見やすいことや、中身についても採択委員長からご説明があったように、やはり帝国書院がよいと思いました。

教育委員

帝国書院のものを推薦したいと思います。一番気に入ったのは、163ページの「日本の位置と周りの国々」で、日本にはすごく離れたところに島がたくさんあることを一目瞭然に見ることができて、非常に気に入りました。

教育委員

帝国書院は本当にさまざまな地図を出していて、『旅に出たくなる日本地図』『旅に出たくなる世界地図』と挙げるときりがありません。そこで培われているからでしょうか、地図の周りにお祭りや伝統工芸等、上手にイラストを入れているので、「ここではこんなお祭りがあって、こんなものを作っているのか」ということがすぐに分かります。もちろん兼六園や石川県のこともちゃんと出ていますし、この楽しさはいいなと思いました。

教育委員

採択委員会からもあったように、北陸を最初の方で取り上げているというのは、すごく魅力的であると思います。この地図で学ぶことができればよいと思うので、こちらに賛成します。

教育委員長

それでは、地図に関しては帝国書院のものを採択するというので、よろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育委員長

それでは、地図は帝国書院のものを採択します。まとめますと、地理は東京書籍、地図は帝国書院ということで採択いたします。

以上で国語、書写、地理及び地図の採択が終わりましたが、時間が来てしまいました。当初お約束したとおり、次の美術の採択については次回に回し、本日はここまでとさせていただきます。

議案第 26 号 平成 24 年度使用教科用図書（中学校用教科書）の採択について（学校指導課）
【7月27日】

種目「美術」

[美術：説明の概要（採択委員長）]

美術については3者から刊行されているが、答申書にあるように3者とも推薦するという形になった。これは観点によって意見が分かれたからだが、最終的には光村図書出版を最も高い評価とした。

光村図書出版の教科書は、学習の狙いや4観点（美術への関心・意欲・態度、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力）が個々の部分で明記されている。また、技法について3者の中で最も丁寧に説明されていた点も高く評価された。

開隆堂の教科書は、学習を深める素材が豊富に盛り込まれており、美術を一つの時代・国・地域の文化として考えて、それを発展的に学んでいく上で優れていると評価された。

日本文教出版の教科書は、同年代の生徒の作例が豊富に取り込まれていて、作った生徒がどのように考えてそれを作ったかということまで記載されている。「自分もやってみようか」と意欲をそえられるのではないかとこの観点から見ると、優れた教科書として評価された。

好みという言葉はふさわしくないかもしれないが、最後はどの観点を評価するかということで、採択委員の中でも相当意見が分かれた。そういう中で、教科書として分かりやすく教えやすい表記がされていること、技法について丁寧に教えていることを重視して、光村図書出版の教科書を最も高い評価とすることで合意した。ただし、相当意見が分かれたので、3者それぞれを優れたものとして挙げた答申になっている。

[美術：質疑応答]

教育委員

教科書の構成について、開隆堂は「美術1」が1年生、「美術2・3」が2年生と3年生が使うのだらうと思って見ていたのですが、ほかの2者は上下になっています。実際にはどのように使われているのでしょうか。

採択委員長

その点も議論になりました。実際には、1年生には「美術1」が配られて、2年生のときに開隆堂であれば「美術2・3」が配られますが、ほかの2者の場合も「美術2・3上」「美術2・3下」とあるので、2年生のときに2冊配られるのだそうです。先生方は各学校の教育課程に基づいて、2冊の間で自由に行ったり来たりしながら使っていくことになるということです。

2冊が便利か、1冊が便利かという議論も出ましたし、分かりやすいのは開隆堂という話もありましたが、決定的な理由にはなっていません。

教育委員長

学校の研究委員会では、日本文教出版の教科書を高く評価するご意見が多くありましたが、それはこれまで使っていたということもある気がします。その点について、採択委員会や調査委員会で何か話はありましたか。

採択委員長

美術に限ったことではありませんが、現在使われている教科書は、使い慣れているということもあって多少評価が高くなる傾向があるのではないのでしょうか。採択委員会ではそれにこだわらずに見ていきたいと思ってやってきました。逆に現在使われている教科書の評価が低い場合は何か問題があると思われず。美術の場合はそんなことはなかったのですが、研究委員会に関しては、今まで使ってきた教科書に支持が集まることについては割り引いて考えるべきであると、採択委員会では話題になりました。

教育委員

美術の授業では、どの程度教科書が使われているのでしょうか。テクニック等は教科書を見れば分かりますが、実際に絵を描いたり、物を作ったりするときに、教科書はどの程度の役割を果たすのか、教科書を選ぶ際にはそれを考えなければいけないと思います。教材として作品が多い方がいいのか、あるいはいろいろな技法があった方がいいのか、そのあたりは議論されたと思いますが、やはり甲乙付けがたいということでしょうか。

採択委員長

甲乙付けがたいというより、個性があるということです。現場ではそれぞれの先生の方針によって差が出てくると思います。最初に申し上げたとおり、絵を描かせる際の教科書の役割も、先生方お一人お一人によって違いますから、逆に言えば、そこを含めて評価が分かれてしまったわけです。

「教科書なので基本的な技法や観点は書いてあった方がいい」という意見の方がやや多かったという程度にご理解いただければと思います。

事務局

今のご質問について調査委員から補足説明をさせていただきます。

美術調査委員

開隆堂の1年生用の教科書の8ページをご覧ください。風景画を描くということで、「心ひかれる風景」という題材が載せられています。授業で風景画を描くときには、このような題材を紹介したページを子どもたちに提示しています。この本では両ページにわたって鑑賞に関する細かな説明を掲載していますし、10・11ページにはいろいろな表現の作品例が載せられているので、これらを見た子どもたちは、自分で選択して、いろいろな表現にチャレンジしていきます。

技法的な部分については巻末にそれぞれ載っているので、必要に応じて技法を提示しながら教科書を使っています。

教育委員

子供たちが何かを見て感動するというのは、大切なことだと思います。

3者の中では、光村は見開きを上手に使って作品を紹介しています。もちろん教科書に載っているのは本物ではありませんが、何が出てくるかなと思って開くとピカソ作「ゲルニカ」の迫力がせまってきます。私たちはその背景を知っているので、鳥肌が立ちました。このようなページの使い方は、採択委員会で話題になったのでしょうか。

採択委員長

はい、もっと言えば印刷技術も含めて最近是非常に良くなったということや、出版社ごとによく考えられているなという意見は出ましたが、特別それで差があるという議論にまではなっていません。

教育委員長

よろしければ、これから採択に移りたいと思いますので、採択委員と調査委員の皆さまは、恐れ入りますが一度退室願います。

(採択委員、調査委員 退席)

[美術：審議]

教育委員長

採択委員会からは、そんなに差異はないということですが、光村図書を推薦するという形になっています。皆さまのご意見はいかがでしょうか。

教育委員

光村の教科書の中に、朝起きてから寝るまでの間に、どのくらい美術に接するかを書いたチャートのようなものがありました。このような導入の仕方は面白いと思いました。当たり前のことですが、1日をそのように見ることはあまりないので、子どもたちが「ああ、そうか」と、うなずいてくれればすてきななと思いました。

また、光村図書にはゴッホが絵の具屋のおじさんに、絵の具代の代わりに

プレゼントした絵が載っています。そこにたくさんの浮世絵が描かれていますが、その基になった浮世絵をととても分かりやすく載せ、日本とヨーロッパの交流が分かります。光村では、全体的に大切なものが大きく扱われている点がいいです。

教育委員

私も光村がいいと思います。金沢の 21 世紀美術館が大きく記載されていますし、私たちが日ごろ見ている一流の画家の作品がきれいに、すぐ目に入るように描いてあるので、いいと思いました。

教育委員

採択委員長のお話があったとおり、非常に悩ましいと思って見ていました。開隆堂の本は結構重厚で、作品の紹介の仕方も丁寧だと思いますし、非常に多感な時期の子どもたちに芸術を見せるときに、果たして技法を優先すべきかという気持ちも個人的にはあります。

また、日本文教出版の教科書はかなり好きです。いろいろなアート全般の使い方や、子どもたちの作品が非常に多いという点で非常に好感が持てますが、これら 2 者は特徴がはっきり出すぎているように思います。「では間を取って光村」というのも変な話かもしれませんが、恐らく教育現場で使うには、この辺が一番使いやすいのかなという気がします。

実は採択委員会からの報告書を見る前に、自分のメモを見たら同じことが書いてありました。やはり一番バランスが取れているので、安心して使えるような気がします。

調査委員の方の「きわめて」が多いのは光村でしたし、委員会からの推薦もあるなら、それでいいのかなと思いました。

教育委員

美術の技術的な取り組みにはそれぞれあると思いますが、美術史年表がきちんと出ていて、年代の流れが分かりやすかったので、私も光村がいいと思いました。

教育委員長

光村というご意見が多いですが、よろしいでしょうか。それでは、美術は光村図書出版を採択いたします。

種目「社会（歴史的分野）」と「社会（公民的分野）」

事務局

採択委員長から説明を受ける前に、事務局から連絡させていただきます。2 種類の書類を配付しましたが、いずれも教科書発行者から教育委員会あてに届いた書類です。

まず、東京書籍から届いた「東日本大震災に関連する教科書記述の見直しについて」という書類をご覧ください。「3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響を受けて、教科書においても記述や取り扱いの見直しの必要性が出てきている。現在教科書の中で、関連する記述を洗い出して、再検討を進めるところである」とあり、具体的に中学校社会の公民分野では、教科書の 39 ページ右側に原文と訂正文が示されています。原文では「東ティモールの国連平和維持活動に参加する自衛隊」という説明文と写真がありますが、「東日本大震災の被災者を救助する自衛隊」の写真に訂正するという報告を受けています。ほかにも自衛隊が写っている写真に訂正するものがあるとのこと。また、「実際の教科書では、このような形になります」という説明も受けています。

もう一つは自由社から届いた書類で、新しい歴史教科書にすることが書かれています。「現在、歴史の見本本として届いている歴史教科書の巻末の年表部分は、東京書籍の平成 14 年度版の年表をほぼ写す形で使っていたことが分かった。来年度自由社が供給する教科書は、新しい年表と差し替えた」ということ、また一部誤植があったというお詫びと訂正の連絡を受けています。以上のことを報告させていただきます。

[歴史：説明の概要（採択委員長）]

歴史については7者から教科書が出ているが、最終的にはその中の2者を推薦することとなった。最も評価が高かったのは東京書籍の教科書である。歴史用語は日常用語とは違う言葉が結構使われているが、用語解説がまとまった形で付いているのは東京書籍を含む2者だけで、そういう点ではよくできている。

また、東京書籍だけ判型が大きい。どの教科書も見開き2ページで一つの項目となっているが、東京書籍の教科書は判型が大きいため、資料が豊富で見やすくなっている。「大きくて持ちにくいのではないのか」という意見もあったが、教科書としては見やすく使いやすくと評価された。

それから時代区分や年代の表し方、あるいは年表や資料が非常にしっかりしている。歴史では関連事項をさかのぼったり、後で起きた関連事項を見たりして、1冊の間でページ間を行ったり来たりすることがあり、7者中6者が関係箇所を矢印とページで指示している。その中で一番丁寧で見やすいのが東京書籍だった。

また、年表は非常に大事で、一つの事項を勉強していく上で、それが全体の時代の流れの中でどうなっているかを見るのが年表である。その年表が無難にできているのも東京書籍であった。実はほかの7者の年表を見比べたところ、4者に関しては問題があった。教科書の作り方としては、古代、中世、近世、近代、現代という時代区分があり、これについては各者とも学習指導要領に基づいて同じように作られている。ところが年表では、中世ではなく封建時代と書いたものがある。中世は封建時代なので間違いではないが、章立てで中世と書いているのに、年表が中世ではなく封建時代となっているものがある。また、日本の年表には近世があるのに、西洋の年表には、中世の次が近代となっていて近世がない者もあった。古代、中世、近世、近代、現代という区分は本来ヨーロッパの時代区分からスタートしている。この時代区分は大体は日本の歴史にも当てはまるが、年表の中には日本の時代区分しかないものもある。そうすると、例えば古代をとっても、日本と西洋では国家が成立する時期は異なる。日本と世界では、時代区分としては同じ言葉であっても、実際の移行年代は違う。そういう意味で、年表としてあまり問題がなかったのが東京書籍、自由社、教育出版だった。ただ、先ほどのお話では、自由社は東京書籍の旧版の年表を使っていたということである。年表は非常に大事な資料であるので、評価においても重視したが、東京書籍の年表は非常に丁寧で、使いやすく、学びやすく作られている。

2番目は帝国書院の教科書である。帝国書院も無難な教科書で、先ほど指摘したような相互の関連付けも出ているが、年表等に少し難があるために2番目に位置付けた。

また、金沢や北陸との関係で、歴史的にどのような人物が扱われているかということは若干話題になった。もちろん金沢としては、例えば八田與一さんが載っている教科書は意味があるが、金沢では副読本が作られているので、地元出身の偉人が載っていることはさほど比重をかけなくてもよいのではないかという議論があった。

[歴史：質疑応答]

教育委員

ほとんどの教科書で毛沢東、蒋介石等の中国語読みが上に書いてあります。育鵬社だけが逆ですが、これは今のスタンダードですか。

採択委員長

人名の発音表記は中国の方はあまり気にされませんが、韓国の方は発音表記を非常に気にされるので、そういう点はそれぞれ配慮されているのかもしれない。ただ、そのこと自体は今回の採択委員会で、特に大きな議論にはなっていません。

教育委員

自由社は日本の神話を見開きを使って説明していますが、ほかの教科書では神話を載せていないようです。そのあたりは何か議論になりましたか。

採択委員長

特に議論していません。

教育委員

それぞれの教科書で、史実の評価によって書き方が違うと思いますが、そのあたりについて細かく議論されたのでしょうか。歴史学者の中でも評価が分かれていることを、教科書の中でどう扱うかということです。それぞれの記述内容の差異については、かなり深く議論されたのでしょうか。あるいは学習指導要領に沿っていれば、必要なものさえ載ってれば、そこはあまり考えないという形で議論されたのか、そのあたりについて教えてください。

採択委員長

基本的には後者の立場を取りました。当然各者でどういう事件をどのようなスタンスで取り扱うかは違って、差があると思います。それにあまり踏み込むのではなく、教科書全体で見て、学びやすいか、教えやすいか、分かりやすく記述されているかという点に重点を置いて見ていきました。

そういう意味で言うと、先ほど「無難な教科書」と言ったのは、書いてあることが分かりやすく誤解しにくいということですが、採択委員会としては、そのことを評価しました。

例えば大日本帝国憲法の特徴とは何か、各者でそれぞれ書いてあります。もちろんどういうスタンスで書いてあるかということも大切ですが、それ以上にわれわれが気にしたのはわかりやすさです。そこでは、一般的には立法院と行政府の上に天皇がいますが、大日本帝国憲法の一つの特徴として、軍事行動についてはそれとは別に統帥権というものが独立していました。その書き方がどうということではなく、たった一言「統帥」と書いただけの教科書もあれば、「軍事権は内閣が責任を持たない」というように、「統帥」という言葉の意味を分かりやすく表現した教科書もあります。われわれはこの点の評価しました。ベテランの先生はともかく、採用されたばかりの経験の浅い先生でも歴史を教えなければなりません、そんなときに教えやすい教科書はどれかと考えました。すなわち用語の解説がきちんと付いているか、事項と事項の関連がきちんと付けられているか、年表と全体の構成に齟齬がないか、そういう技術的な点を注意して見ています。

個別の事項の細かい扱いについては、検定に通っている以上、重点の違いということで、あまり踏み込んで評価の対象とはしませんでした。

教育委員

東京書籍の204ページに「日中戦争は中国や朝鮮、日本の人々の生活にどのような影響を与えたか」と、比較的是っきりと出来事を明記してあると思います。ところが、帝国書院の場合は非常にあいまいに書かれているように思います。ほかの教科書に比べて、東京書籍の記載の仕方はどんなものでしょうか。

採択委員長

個別の事項に対する各者のスタンスについては、あまり踏み込んだ議論はしていません。例えば一つの教科書の中で、記載に著しい齟齬があって分かりにくければ問題ですが、一貫して教科書としてのスタンスがあるなら、それでよいのではないかと考えています。

事務局

今のご質問について、学習指導要領では「経済の世界的な混乱と社会問題の発生」と題して、「昭和初期から第二次世界大戦終結までのわが国の政治、外交の動き、中国等アジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活等を通して、軍部の台頭から戦争までの経過と大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる」と表記されています。

教育長

今回の学習指導要領の改訂により、新しく入ってきた点や変わった点があれば説明をお願いします。

事務局

今のご質問について、調査委員から少し説明をさせていただきます。

歴史調査委員

東京書籍の 88 ページをご覧ください。中世のまとめ（振り返り）のページですが、今回の学習指導要領でより重視されたこととして、言語活動の充実が挙げられます。例えば「なぜ起きたのか、どのように作られたのか、どのような影響を与えたのかを考えてみよう」というように、一つの章が終わるごとに、自分たちの考え、理解したことをまとめていくようになっていきます。

それから 79 ページをご覧ください。学習課題があり、授業の最後にまとめとして、79 ページの一番下に「室町時代の文化の中で、今日につながるものを三つ挙げよう」となっており、大体 1 時間の授業のまとめの中で非常に多様な言語活動を要求して、子どもたちに表現力を付けていくという工夫が随所に見られます。

また、今回から歴史の学習は 3 年間でやっていくことになりました。東京書籍でご覧いただくと、最初は 6 年生を卒業したばかりですが、243 ページになると中学 3 年生ですから、言語活動も「日本が抱えている課題を解決するために自分自身ができること」というテーマで、小論文という形になっています。

このように生徒たちの発達の段階を見通した上で、表現活動を工夫して要求しているという点が大きく変わっています。

歴史としては、「歴史に対する興味と関心を高めて、さまざまな資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てる」ため、言語活動が重視されています。

教育委員

東京書籍を読んでいると、どうしても気になる表現があります。南京事件では「女性、子どもなど一般の人々を多数殺害しました」とありますが、原爆の投下等、ほかの個所では「命を奪われた」「多くの犠牲者が出ました」といった表現になっています。なぜ南京事件だけ「殺した」というかなりきつい表現になっているのですが、その辺は検討される中で、気になさらなかったのでしょうか。

採択委員長

各事件の表現形態まで踏み込んでいません。

教育委員

それでは研究された先生方に聞きたいと思います。

歴史調査委員

そういった個別の表現については、議論はありましたが、先ほど採択委員長のおっしゃられたように、検定に通っている以上、重点の違いということで評価の対象とはしませんでした。

教育委員

分かりました。

教育委員長

私から一つだけお尋ねします。どのテキストも最初の方に歴史を学ぶ意義について触れていますが、歴史をどのようにとらえて学ぶのかということは、生徒にとっても大切なことだと思います。それについて各者の比較や議論はありましたか。

採択委員長

「歴史は何年に何が起きたかを暗記する科目である」という一般的な見方をされていますが、そうではないことを、各者とも冒頭で丁寧に扱うようになっていると思います。厳密に言えば、歴史学というのは文献や遺跡・遺物に基づくものであり、それらを読み取っていくという技術の問題も含まれるわけですが、最近の教科書はどれも丁寧に書かれていて、その部分ではあまり差がないと判断しています。

教育委員

自由社の「新しい歴史教科書」は、いろいろな物語が散りばめられています。例えばある遺跡が発見されて、日本の歴史が数万年もさかのぼったとか、

エルトゥール号事件の恩を忘れず何十年もあとにトルコが日本に恩返しをしてくれた話、八田與一は副読本で使われるとおっしゃっていましたが、あちこちにストーリーが出てきて、読む人が感動します。history というのはまさに his story です。「この教科書の物語はいい」という意見はありましたか。

採択委員長

自由社の教科書は、歴史上の人物を取り上げて見ていくという構成がされているので、興味を持って歴史的な物事を考えていくという点では工夫されているという評価はあると思います。

教育委員長

よろしいでしょうか。次に公民についてご説明をお願いします。

[公民：説明の概要（採択委員長）]

公民も7者から出版されているが、推薦対象となっているのは東京書籍と帝国書院である。そのうち東京書籍から、公民に関して3月11日の震災を受けて記載内容を変えるという書類が届いているが、これによって採択委員会の評価を変える必要はないと思うので、これ以上の言及は避ける。

公民においては東京書籍と帝国書院の差が小さく、採択委員会の意見が多少割れたところがある。東京書籍は、ほかの社会科3分野と同様、判型が大きいために、見やすく豊富な資料が盛り込まれていることが評価された。

また、学習指導要領は、地理、歴史、公民は社会科という一つの科目であることを繰り返し指摘しているが、東京書籍は3分野の編集委員の代表者が共通しているために、3分野の統一性が図られている。さすがに「歴史のこのページを見なさい」という記述はないが、教科書間を行ったり来たりする際の指示が最も丁寧にされている。

それからすべての教科書は、巻末に日本国憲法をはじめ重要な法令が載せられているが、法令なのでその条文をやさしく言い換えることはできない。そこで用語の解説が必要になるわけだが、東京書籍の場合は横にきちんと載っている。これが記載されているかどうかで教えやすさ・学びやすさは随分違うだろうが、そこまで丁寧に指示があるのは東京書籍ともう1者だった。

また、今回の学習指導要領の改訂では、発信能力（勉強したことを主体的に説明する力）等を強化する姿勢がはっきり出されている。帝国書院との比較でいうと、東京書籍が高度な内容を発展的に扱えるようになってきているのに対して、基礎基本を非常に丁寧に学ばせよう、教えようとしているのが帝国書院である。教科書としてどちらを重く見るかということで、採択委員会でも意見が分かれた。

環境問題やエネルギー問題といった今日的な課題の見直しについては、今のところ2者だけが表明しているが、今後震災との関係で何か動きが出てくる可能性はある。例えば公民において少子高齢化は現実的に非常に大きな問題だが、残念ながらどの者も丁寧に扱っていない。相対的には割合丁寧に扱っているのは帝国書院である。

そういうことを含めて、最終的には東京書籍を最も高く評価することになったが、どこに重点を置くかによって評価が分かれた。

[公民：質疑応答]

教育委員

各者の教科書を拝見しましたが、中身にそんなに大きな差はないように思いました。東京書籍は見開きのページ（单元ごと）の右下に、問題意識を問うたり、説明を求めたりする箇所があります。子どもたちに説明能力を求めるのはよく分かるのですが、中学生にこれだけのことを求めるのは、かなりきついように思いました。私自身、これを説明するように言われても、なかなか難しいと思います。学習指導要領ではこういうことをするようにいっていますが、子どもたちにとってはかえって難しいのではないかと、実は心配

していました。そのあたり、現場の先生方はどのようにお考えでしょうか。

事務局

今のご質問について、学習指導要領では「公民の学習を進めていく際、適切な課題を設けて学習を行うようにする」とされています。生徒の興味・関心を高めるだけでなく、自ら課題を見出し、自ら学び、自ら課題を解決する力を公民の中でも育てていくことが求められているので、「難しいのではないか」ということにとどまらず、公民ではそういうことも求められていると考えていただければと思います。

採択委員長

採択委員には現役の中学校の校長先生で、社会科を教えておられた方もおられますが、その先生は「1~2年生で地理と歴史をやり、公民は3年の6月くらいからなので、そういう意味では、かなりの生徒はできるようになっているのではないか。」とおっしゃっていました。

教育委員

考えることは非常に大事ですが、難しい設定が多いように思います。しかも1時間という授業時間の中で行うとなると、子どもたちが難しく考えてしまう心配はないだろうかという気がしたので、現場の様子をお尋ねしました。そのあたり、現場の先生方は子どもたちと一緒にどのように考えていくのでしょうか。

事務局

今のご質問について、調査委員から答えさせていただきます。

公民調査委員

現場の者としては、常時この課題を取り扱うのは難しいと考えています。しかし、要所要所でグループ活動等を取り入れて行くと、非常に効果があると思います。

教育委員

日本の国家と国旗について、自由社は見開きを使って説明しています。私の仕事の現場では必ず国旗を掲揚しなければいけません。国旗にはさまざまな厳しい国際儀礼があり、それを知っている人は大人でも少ないです。夜になっても国旗が出ていたり、順番がばらばらだったり、雨や雪が降っていても外に掲げられたままのこともあります。

東京書籍は1999年に国が決めたことが出ていますが、帝国書院はほんの数行で終わっています。自由社の方は、外国の国歌の日本語訳を載せていて、どこの国の国歌であるかを考えさせています。このあたりの扱いは、採択委員会で話題になったでしょうか。

採択委員長

これも学習指導要領との関係で、最低限記載しなければならないこととして、例えば国歌が国のシンボル(象徴)であること、自分の国の国歌や国旗だけではなく、他国のものも尊敬・尊重すること、儀礼として扱われているという、基本的な記述自体はほぼ同じです。はっきり違うのは、自由社や育鵬社がコラム等で国旗に対する思いを語っている点ですが、そういうスタンスの違いについては話題になっています。

教育委員

発展的なものと基本的なものの重視の仕方については、私も見ていて気になりました。相手は中学3年生であることと、残りが半年であることを考えると、東京書籍の「模擬裁判をやってみよう」と帝国書院の「判決について考えてみよう」、同じように裁判に関して見開き2ページを割いていますが、情報量が全く違います。東京書籍の情報量は果たして中3に適切なものか、疑問に思うほどで、これは裁判員に指名される前段階で使うレベルの教材のようです。中学生ぐらいであれば、帝国書院に書いてあるようなところから始める方がよいのではないかと考えて見っていました。そのあたりの評価はあったのでしょうか。これは再確認です。

もう一つ、パレスチナの話は両方出ていて、特に東京書籍では「深めよう、

考えてみよう」ということで、見開き2ページを割いています。失礼かもしれませんが、民族の対立の中でも、最も複雑で深い話を教えられる先生が果たしておられるのでしょうか。これを題材として取り上げる東京書籍の意図が私には分からないのですが、その辺の題材の取り上げ方の話は何かありましたか。

採択委員長

個別のところを出たわけではありませんが、東京書籍は発展的な素材を大事にしている、「ベテランの先生なら取捨選択されるでしょうが、経験の浅い先生がどのように使うか心配だ」という議論はありました。

ただ、教科書として最低限記載していなければいけないことは当然どの教科書も書いてあります。発展的な部分についてはどうしても個性が出てくるので、必要に応じて飛ばしてもいいし、選択肢が豊富だという程度に考えればいいのではないかというのが、採択委員会で出た議論です。

その上で、発展的部分が手厚く出ているものを高く評価するのか、基礎的な部分が丁寧なものを高く評価するのか、意見が割れた部分でした。両者が僅差であったというのは、そういうことです。

ただ、東京書籍は、難しい言葉の説明の仕方や事柄の関連付けがうまいです。その点を評価したところはありません。

発展的な部分だけで評価したわけではなく、全体として見たら、このような評価になったという程度にご理解いただければと思います。

事務局

裁判員制度について、調査委員から取り扱い等について説明させていただきます。

公民調査委員

裁判員制度は、これから先、われわれが取り入れていかなければならない課題として、金沢スタンダードにもシミュレーション学習として取り入れられています。東京書籍は詳しいデータが載っていて、本当の模擬裁判に近いので、より詳しく学習するという意味では、こちらがふさわしいと思います。また、基本的な部分を理解しようということであれば、帝国書院がふさわしいと解釈しています。

教育委員長

ほかになければ、歴史と公民の採択に入りたいので、採択委員と調査委員の皆さまは退席願います。

(採択委員、調査委員 退席)

[歴史：審議]
教育委員長

それでは歴史についての採択を審議いたします。ご意見のある方はどうぞ。

教育委員

結論から申しますと、推薦どおり東京書籍は教科書として非常に優れていると思います。冒頭部分で学びのポイントが明確になっていますし、自学へのヒントが分かりやすく出されています。また、絵や年表が豊富であることも、分かりやすいための要素だと思います。

日中戦争以降の表記に多少露骨で気になる部分はありますが、全体を覆すほどのことではないと考えました。教科書の中にも「南京事件については今も論争がある」と注記にありますし、原爆についても「その後、何年にもわたって被害者が出ている」とフォローされています。そういう意味では、表記が若干気になる部分はありながら、しっかり配慮されているという感覚は受けました。

われわれは大人になってから、さまざまな情報を得ていますが、アメリカと戦争したことすらあやふやな子どもたちに対して論争を持ち込むのは間違いだと思います。そういう意味でも、歴史とは何なのかを学ぶための基礎

的なガイドラインとして、東京書籍が非常に適切であると評価しています。

教育委員

東京書籍の教科書は、例えば115ページに「菜種油が利用できるのも、夜遅くまで起きていたようになり、1日3食になり、正月行事や豆まきのように、今の私たちの暮らしとほとんど変わらない生活が、このあたりで確立した」と、現代の暮らしとのかかわりが語られているのは、すごくいいと思いました。

それから絵巻物は日本独特のもので、今のアニメのルーツではないかといわれていますが、絵巻物に興味を持たせて解説しているところもいいと思いました。

また、先ほどの質問にもあった表記ですが、東京書籍は理想的な表記になっていると思います。例えば毛沢東を「モウタクトウ」と呼んでいるのは日本だけで、日本から一歩外に出ると全く通じません。だからと言って、中国語読みのみで「マオツォトン」では日本人に通じません。漢字には便利さと難しさがありますが、最近は地図帳も、中国や韓国の地名は、まず彼らの発音が先に出ていて、日本語読みは下に小さく出るようになりました。そういう意味で両方表記してあるのは非常に親切でいいと思います。また、内容についてもたくさん説明があって親切だと思いました。

教育委員

教科書が来てからこの間、よく読ませてもらって、こんなこともあったのかと、私自身、随分勉強させていただきました。各者ともそれぞれの編集の立場、歴史観があるのは分かりますし、それは一つの歴史観を持つ上で大事なことだとは思いますが、子どもたちにわが国の歴史をどう教えるべきか、どう知ってもらうべきかというときには、どちらかに偏っていないものが一番ふさわしいと思っています。

特にいろいろ論争のあること、歴史的にもいろいろ問題があることについては、あまり確定的な記載がないものもいいと思います。先ほど委員がおっしゃった南京事件も、日本人としては厳しい書き方だという気がしないでもないですが、全体的に見て、東京書籍が一番スタンダードでいろいろな資料も充実しています。章ごとに学ぶべきことをまず立てて、終わりに問題点を自分なりに理解して、それを説明するなり、表現するところを置いており、歴史的事実をどのように解釈するかを学ぶには、やはり東京書籍であろうと思います。

教育委員

中学の歴史は日本を中心に勉強していきますが、東京書籍の場合はうまく世界の歴史との連動がなされているように思います。私は東京書籍を推薦させていただきたいと思います。

教育長

自由社・育鵬社の教科書は両方とも読み応えがありました。人物等がかなり多く、人からいろいろなことを学べますし、読み物としての面白さもありますし、歴史の深さなどを考えさせられました。全体的にみると中学生にとって基本的なことの学びやすさはどうかと感じました。

一方、東京書籍は小学校から歴史を学んできたものをまとめた年表から章が始まって、章の最後にその年表に付加した年表が出てきます。先ほどおっしゃっていたように、小学校と中学校の学びをつなぎ、時代をつなぎながら作られています。また、歴史というのは世界とのかかわりが大きいですから、世界で起きたことも伝えながら、子どもたちに基本的に必要な知識から、考えさせるようにまとめていると思います。中学という時期に歴史を学ぶということだと、東京書籍の方がいいと思います。また、歴史に関心をもった子どもたちには、先ほどのいろいろな教科書などを読んで深めていくこともあってよいのではないかと思います。

教育委員長

皆様のご意見をお聞きしたところ、東京書籍の方が中学生の教科書とし

ては適した内容と考えられるということであったと思います。歴史の教科書に関しては、東京書籍を採択したいと思いますが、ご異議はありませんか。

委員一同

異議なし。

教育委員長

それでは、歴史の教科書としては東京書籍を採択します。

[公民：審議]

教育委員長

引き続き公民の採択に移らせていただきます。公民の教科書について、ご意見がありましたらお願いします。

教育委員

東京書籍の教科書は、学習指導要領に則った形で項目が取り上げられており、なおかつ深く理解させたり、自分で考えるための工夫が随所に見られます。そういう意味では、かなりいい教科書だという気がしましたが、先ほど申し上げたように、中学3年生にこれだけのことを考えさせて理解させるのは、時間的にも先生方が大変苦勞されるのではと危惧しています。ただ、現場ではそういうことも含めて授業を進めていかれるとのことでしたので、それであれば東京書籍がよいのではないかと思います。

帝国書院もベースをしっかりと学んでもらうという意味では捨てがたいのです。自由社と育鵬社については、最初の「公民をどう学ぶか」という視点のあたりが、少し違うような気がしました。「できるだけ公民の中身を理解できる点で考えると、東京書籍がふさわしいのかなと思いました。

教育長

私は、義務教育を終える前の中学3年生には、公民という科目の基礎をしっかりと身に付けてもらいたいと思っています。帝国書院の教科書を最初に見たときは、ちょっと古い印象がありました。

先ほど国歌や国旗の話も出ましたが、総合的に見なければならぬのですが、今回3月11日の東日本大震災が起こって、私は家族がとても大事だと思いました。帝国書院の教科書では、最初に地震の被災者におにぎりを配る中学生の姿が出ています。家族の単元がはじめの方にきちんと取ってあります。育鵬社や自由社などもありますが、家族の単元がない教科書もあります。

帝国書院の20～21ページには家族の写真が載っています。次のページには地域社会のことが書かれています。今のような時代だからこそ、家族について一度考えることが大切かと思っています。写真が古いからこそ、何となく味があります。それから19ページには「地域伝統を受け継ぐ、長野県松本市」として篠笛を練習している子どもたちの写真がありますが、これは金沢市にもありそうな写真です。見ていくと、中学生にとって身近な風景が随所にあって、中学生の目線で、基本的なところをきちんと学ぶことができるのではないかと思います。

それから目次を見ていただきたいのですが、ちょっと分かりにくいのですが、「持続可能な社会をめざして」というのが8テーマあります。例えば56ページ「人権の保障と公共の福祉」です。金沢では今ユネスコスクールなどで持続発展教育を行っていますので、最後にまとめてではなく、1年間やっていくというのもよいと思いました。それぞれの教科書のよさがありますが、東京書籍とはまた違った味があります。金沢の3年生にはいいのではないかと思います。

教育委員

私も帝国書院が適切だろうと思って見ていました。教育長が今おっしゃったことに加えて、帝国書院には「町の活性化を考えよう」みたいなものがありますが、それと同等の話が東京書籍は「市長に成り代わって考えてみよう」です。どちらが身近に考えられるかということですが、先ほど裁判員制度の話をしました。そういう意味では子ども寄りの目線で入りやすいように思いました。

公民というのは現在進行形で、今われわれがかかわっている話です。帝国書院は、終わるたびに振り返りとして設問が 19 ありますが、世の大人には、私を含めて全問答えられない人もいます。そのくらい基本的なことなのですが、忘れていくかもしれないので、学校で一度押さえておこうということが区切りごとに出てきています。そういう意味では非常に好感の持てる形だという気がしました。

東京書籍で「これはいかん」と思ったのは、株式会社や経済のところですか。この辺の表記の仕方があまりにも表面的です。例えば株の売買については「利潤を上げるため」としか書いてありませんが、そういうところが少し雑なように感じました。その辺について、帝国書院は丁寧に書いてあります。

両方で気になったのは在日韓国人の差別問題です。今の社会のカリキュラムには当然出てくるのですが、差別ということでは在日韓国人の人が「今でも結婚や就職で差別を受けています」と語っていました。その表現のまま子どもたちに見せると、教え方が難しいだろうと思って見ていました。

参政権の話も出ていましたが、育鵬社はそれほどではないが、この辺は圧倒的に自由社の表現に違いがありました。知り合いの在日の方は、このような歴史を受けながら生きてきたわけですが、彼が言うには「当然のこととしてやってきたけれど、明らかに就職や結婚は良くなってきている。参政権に関しては、われわれの中にもいろいろな意見がある。これはそのときの政権によって、是になったり非になったりすることがありますが、事実として受け止めるなら別にいい」ということでした。これがすべての意見ではありませんが、やはりこの辺のことを授業で使う場合は、いろいろな意味で配慮が要るのかなと感じました。

結論としては、冒頭に申し上げたとおり、帝国書院を推薦させていただきます。

教育委員

どちらも素晴らしい構成になっていると思います。東京書籍は「公民にアクセス」「公民にチャレンジ」というものを読んでいるだけで、世の中のことが分かってきて、本当に勉強になりました。しかし、読み終わって「こんなに難しいことが中学 3 年生にできるのかな」という印象を持ちました。

帝国書院で私がいいなと思ったのは、「私たちと国際社会の関係」で、生徒たちと同じ年齢の世界の子どもたちの暮らしぶりを写真や地図で紹介しているところです。これは私がいつも大切だと思っていることで、とても分かりやすく、最低限知っていてほしいと思うことが網羅されているので、いいと思いました。

ただ、子どもの人権の法令が出ているのは東京書籍ですし、「帯に短し、たすきに長し」という感じがします。自由社の国旗と国歌に関する記述は非常に大切なので、何かの機会に使ってほしいですし、自由社の歴史の教科書にはエルトゥールル号事件のように感動するストーリーもありました。しかし、私は帝国書院がいいと思います。

教育委員

東京書籍の 118 ページに「労働とは」ということが出てきます。働くことに対する目的として、「仕事を通して自分の夢や理想をかなえる」というように、温かな感じで書かれていていいと思いました。一方、帝国書院の方は「働くことは単にお金を稼ぐことだけではなく」と硬い言葉が並んでいたりで、ソフトな感じで勉強した方がよいららうと感じました。

教育委員

東京書籍は、判型が大きく写真も多く使われ、生徒の印象に残るという点でよいのではないかと思います。

教育委員長

皆さんにご意見を出していただきましたが、3 対 3 に分かれました。お互いのご意見に対して、何かご意見があればお願いします。

教育委員

先ほどの写真についてのご意見には賛成です。矛盾したことを言うようですが、時間がないときにはビジュアルなものをざっと見る場合があります。「ハンセン病と人権」については、つい最近通訳をしたばかりなので、興味深く拝見しました。時間がないときに写真を見ていくことも大事だなと思います。

子どもたちにとってビジュアルなものはとても大切です。今の子どもたちは前の世代と違って、常にビジュアルなものに囲まれているので、ビジュアルなものから創造性を育んだり、瞬時に情報を得たりします。

教育長

私はやはり帝国書院です。最近ではビジュアルに流れるからこそ、3年生にはきちんと見てほしい、押さえをしてほしいという思いもあります。繰り返しますが、「持続可能な社会をめざして」というのを最後にまとめてやるのではないところがいいと思います。

教育委員

私は意見を変えるつもりはありませんが、同数ですから、結果としてどちらが採択されても変なことにはならないという安心感があります。採択委員の結果もあり、ここでも半数で分かれたので、私は委員長のご判断にお任せした方がいいのかなという気がします。

教育委員

先ほど写真が多い点で東京書籍を推し進めましたが、教育長が言われるようにきちんと学ぶことの方が大切だと思います。

教育委員

教育長がおっしゃるように、家族や地域も非常に大事だと思いますし、それをしっかりとらえているので、帝国書院を推されるのは分かりますが、私は公民が一体どういうものなのかを個人の立場で考えました。国家をそのまま容認するのではなく、個人がしっかり物事を考え、その中で権限をどのように行使するか、そういうことを身に付けたり、考える機会であると思います。そうであれば、教える側からいっても、東京書籍は比較的スタンダードですと入ってくるのではないかと思います。

教育長がお話しされたように、資料や法令の説明等、トータルとしてかなり出来上がっている気がします。ただ、最初にお聞きしたように、かなり高度なものを中学生に求めているという心配はありますが、それは現場の先生にしっかりやっていただくことになるでしょう。

ということで、地域や家族に軸足を置くことは、公民という物の考え方をしていくときにどうなのかという気がしないではありません。

教育委員長

「どちらになっても、大丈夫であろう」という微妙な差ということで、ご意見が分かれたのではないかと思います。私も基本的には両者はそんなに差異がないと思っています。ただ、そうは言っても決めなければいけないとなると、私は東京書籍を採りたいと思います。理由として、一つには、時間的に難しいかもしれませんが、公民という教科は、深く何かを考えて、どのように自分を処していくかを学ぶことが大切です。「公民とは何なのか？」ということ自分で考えて、決めて、行動することが大切なので、そういう意味では東京書籍かなという気がします。確かに授業の中でどれだけできるのか、少し疑問はありますが、自分で考えるきっかけになる内容のものが入っています。

そのように発展的、あるいは深めることに重点が置かれている東京書籍に対し、帝国書院は基礎的な部分を押さえているので、ある意味では学びやすいかもしれません。調査委員会の結果もほとんど拮抗していますが、学校研究会の委員会では圧倒的に東京書籍を推しています。

確かに帝国書院の方は、家族についての指摘や差別の問題など、いいところもあるのですが、どちらかといえば東京書籍を採りたいと思います。

ただ、私の意見で通ったということでは具合が悪いので、皆さんのご意見

で決めたいのですが、いかがでしょうか。

教育委員

委員長の「公民とは何であるかをとらえる」というお話を伺って、改めて二つを比べてみました。基本的なことがしっかりとしている帝国書院よりも、東京書籍は、巻頭の「公民というのは人やものにかかわることであり、かかわりながら判断力を身に付けていく」という文章を読み、そのページを、載っている美しい写真を見てから授業が始まるというのは、なかなかいいと思います。

教育委員長

非常に微妙なところではありますが、皆さまのご意見を伺ったところ、やや東京書籍が多いように思いました。よろしいでしょうか。

教育委員

挙手による採決の方がはっきりすると思います。

教育委員長

それでは、挙手をお願いします。それでは、東京書籍がふさわしいと思われる方は挙手をお願いします(4名)。帝国書院がふさわしいと思われる方も挙手をお願いします(3名)。4対3ということで、東京書籍を採択することにいたします。

それでは採択委員に入ってください、数学について始めたいと思います。

種目「数学」

[数学：説明の概要(採択委員長)]

数学も7者から出版されているが、内容にさほど違いがない。最終的には東京書籍と啓林館が優れていると評価した。数学というのは、途中で分からなくなると、そこから先がすべて分からなくなる可能性のある科目だが、段階的に基礎基本を丁寧に作っているのが東京書籍だった。

この教科書は判型が大きいわけではないが、余白が広い。先生方がおっしゃるには、そこに解法を書き込むことができて使いやすいということだった。また、索引に図形や計算式が書かれている点でも、教えやすく学びやすい教科書として評価された。現在、中学の数学は習熟度別にクラスやグループを作って授業を行っているそうだが、発展段階によってはもっと先に進むことも可能になっていて、そういう点でも分かりやすく示されている。

啓林館についても同じようなことが指摘された。数学は抽象的な論理を理解するものだが、それだけでは数学嫌いになりかねないので、日常生活に密着した課題を多く取り上げて、関心を引きやすくしている。そういう点ではよくできているという声があった。

このようなことで、採択委員会としては東京書籍、啓林館の順で推薦するという結論に達した。

[数学：質疑応答]

教育委員

二つ聞きたいことがあります。一つは、東京書籍の「この本の使い方」に「電卓を使うことが有効な問題に、この印が付いています」とありますが、どんなときに電卓を使うのでしょうか。

もう一つは、啓林館の「この本で学ぶ皆さんへ」に「ぜひ保護者の方も、子どもたちと一緒に数学の楽しさに触れてみてください」とありますが、啓林館はほかの教科書にもすべてこのような文章を付けているのでしょうか。それとも数学は家庭学習が大切なので、数学にだけ付けているのでしょうか。

採択委員長

各教科ともそうですが、いきなり勉強に入るのではなく、最初になぜこの教科を勉強するのか、どういう意味があるのかという点は、それぞれ大事にしています。

計算については、昔はそろばんや計算尺を使っていた時代もありましたが、それが電卓に替わり、最近は電卓そのものもお蔵入りしているのかもし

れません。逆に手で計算したり、暗算で計算することの意味との関係で、わざわざこのようなことを取り上げていると考えられます。

保護者に関する記述は、採択委員会でもそれに関する意見は出ませんでした。ただ、一番引っ掛かりやすく、一度引っ掛かると回復が難しい科目であるという認識は全体としてあります。

事務局

電卓に関して、調査委員から補足させていただきます。

数学調査委員

東京書籍の教科書で申し上げると、1年生の128ページ、129ページに電卓のマークが付いています。129ページの問題のように、 X の値が10、100、1000のときには計算に非常に時間を要しますが、ここでは思考力を重視したいので、答えは電卓で簡単に出して、考える方に重きを置こうというところで電卓マークがあります。

教育委員長

両者とも内容的にはそれなりのものなのだろうと思いますが、調査委員会の資料を見ると、3番目の項目の「意欲を高める」「主体的に学ぶ」、7番目の項目の「学年相互の関連」「系統的である」といった項目で、東京書籍と啓林館の差異が出ています。その項目について、特に東京書籍の方が優れているという事例がありましたら、示していただけませんか。

事務局

今のご質問に関して、調査委員から説明させていただきます。

数学調査委員

例えば東京書籍の1年生の220ページには、いろいろな題材が取り上げられていて、子どもたちにとっては、単なる教科書に載っている計算問題や学習指導要領で示された範囲を超えて、数学の探求をしようという内容になっています。また、その後には「生活と数学」としてバーコードの仕組みや、「数学の歴史」についても書かれていますが、子どもたちの興味を引くような内容がたくさん取り入れられているのが、東京書籍の特徴ではないかと思えます。

教育委員長

それは「意欲を高める」とか「主体的に学ぶ」という項目に相当するものですね。「学年相互の関連」「系統的である」という項目についてはいかがでしょうか。

数学調査委員

系統性については、中3の教科書の148ページで、最初に三平方の定理を取り上げ、次の168ページで円を取り上げています。これまでと違って、応用性の高い三平方の定理を先に持つてくることで、それを利用して入試でも多用されている円の問題を解くという構成にしています。

教育委員長

そのあたりが系統的にかかわる配慮であるということでしょうか。

採択委員長

補足すると、1年生の教科書の目次をご覧くださいと、どの者も平面図形が出ています。7者を見比べると、ほかは基本図形から入って、2節が図形の移動になっていますが、東京書籍だけ1節が図形の移動、2節が基本の作図です。何となく逆のような気がしたので尋ねたところ、小学校では図形の移動から入っているので、小学校から中学校へという流れを考えた場合、この方がよいそうです。東京書籍はこのあたりが非常によく作ってあるという話を調査委員会の質疑の中で聞きました。

教育委員長

「意欲を高める」という意味では、東京書籍の巻末の資料が充実しているからという判断かと思いましたが、逆に啓林館の方が巻末の「数学の広場」の内容が充実していて、ページが多いような感じがしたのでお尋ねしました。調査委員の判断としては、そういう判断だということですね。

採択委員長	私も驚いたのですが、図形ではどの者も一番後ろに必ず何枚か厚紙が付いていて、立体図形を作るようになっていきます。かつては数学は紙の上で計算したり図形を書くだけでしたが、立体にまで入って、手作業をしながら理解するという配慮は、各者に共通して見られます。そういう意味では各者同じなので、程度の差をどう見ていくかということになると思います。
教育委員	中学校で数学は習熟度別に子どもたちに教えていますね。その際に、記述を分けていることで教えやすいと思われる具体例はあるのでしょうか。
採択委員長	その辺についても議論が出ました。習熟度別編成を何段階まで分けて行うか等は、すべて学校によって違いますから、そこまでの議論はできません。ただ、最低限基礎としてやっておくところ、もっと進められるところというように、段階がどのくらい明示されているかということは、評価の対象として考えました。
事務局	今の件で、調査委員から少し補足させていただきます。
数学調査委員	例えば東京書籍であれば、1年生の22ページに「もっと練習」とあります。習熟度別で定着が悪かった場合には、このように追加の問題が付いています。東京書籍のもう一つの特徴として、復習として戻るべきページが載っています。例えば1年生の42ページの基本問題の右側には、そこでつまづいたときに戻るべきページが指示されており、丁寧な作りになっています。
採択委員長	東京書籍はすべての種目でこれをやっていますから、会社の編集方針の一つであろうと見ています。
教育委員長	数学はなかなか分かりにくい種目ですが、生徒から見て分かりやすい教科書という観点で見ると、どうなのでしょう。それでもあまり差異はありませんか。私が読んだ限りでは、ちょっと差があるテキストがあったので、どのように見ておられるかをお聞かせください。
採択委員長	これも大事な問題だと思います。技術的な問題もありますし、数学的な事象に関心が持てるような素材をどう扱うかという問題もあると思います。
事務局	それでは調査委員から少しお話しさせていただきます。
数学調査委員	東京書籍も啓林館も、作りとしてはいいと思いました。2者はノートの取り方に関する説明の仕方が異なり、啓林館は例題を黒板に書く形をずっと踏襲してきました。これに対して東京書籍は、前回までは黒板に例題を書いていましたが、今回から変わりました。東京書籍の1年生の61ページをご覧くださいと、すべてノート形式になっています。やはり子どもにとっては黒板形式よりノート形式の方が分かりやすい、「こんなふうにノートを取ればいい」ということが理解できるのではないかと思います。
教育委員長	ご質問がなければ採択に移りたいと思いますので、採択委員の皆さまには退出をお願いいたします。
	(採択委員、調査委員 退席)
[数学：審議] 教育委員長	それでは数学の採択を始めたいと思います。私は工学系の人間で、数学にも関心があるので、数学について一つ申し上げたいと思います。実は具体的

な問題には単位があるのですが、単位について触れている教科書は少ないのです。東京書籍は1年生の60ページで、「文字を使って表した式が、どんな数量を表しているかを考えましょう」ということで、単位について触れています。例えばA×Bの面積を出す場合、単位はcmの2乗でcm²になりますが、それはそれぞれの長さであるcmとcmを掛けるから2乗になるわけです。これはものづくりではとても大切なことなので、こういうところに注意を置いているというのは炯眼だと思いました。

啓林館の方は、巻末の「数学広場」が内容的にかなり充実していて、興味を引きます。東京書籍は章ごとに基本から応用まで問題を用意していて、かなり問題を解かせるところに力を入れているように思いました。また、書き方が比較的分かりやすい、すっきりしているのが東京書籍の特徴です。分かりやすさで言うと、それぞれにプラスとマイナスがありますが、総じて東京書籍の方が分かりやすい説明がしてある感じがしました。

啓林館は巻末の資料が56ページもあります。東京書籍は33ページですから、こういう点には啓林館の方が力を入れているようです。

教育委員

先ほどお尋ねすべきだったのかもしれませんが、資料はどのように使われているのでしょうか。資料がたくさんありすぎると、使いにくいのではと心配ですが。

教育委員長

資料を豊富にさせる考え方と、本文を充実させる考え方があるのかもしれませんが。ただ、トータルのページ数を見ると、1年の教科書では東京書籍が263ページ、啓林館は273ページとなっています。

教育委員

東京書籍がいいと思います。中学生の子どもに勉強を教えるときに、解き方を見るために教科書で振り返りながらやっていますが、東京書籍は分かりやすく書いてあります。

また、委員長がおっしゃっていたように、余白があつてすっきりしていますし、調査委員から圧倒的な支持を受けていることを考えると、東京書籍がいいです。

教育委員

東京書籍は、全体に淡い色、和の色を中心にしているので、見やすいように感じました。また、報告を受けて感じたのは、「分からないときは、ここを見ればよい」というアドバイスがあつて、適切に書いた本であると思いますので、東京書籍でいいのではないかと思います。

教育長

私も東京書籍がよろしいのではないかと思います。

教育委員

「分からなくなったらここに戻れ」というのが、とても気に入りました。私自身が勉強をしていく場合、多分途中で分からなくなると思うので、「ここに戻れ」と親切に書いてある東京書籍を推したいと思います。

教育委員長

東京書籍というご意見が出ていますが、ほかにご意見はありませんか。それでは、数学については東京書籍を採択するということによろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育委員長

それでは、数学は東京書籍を採択することにいたします。次に保健体育に移らせていただきたいと思います。

種目「保健体育」

[保健体育：説明の概要（採択委員長）]

保健体育は4者から出ているが、各者相当ははっきりした違いがある。保健体育で1冊というのはどの者も同じだが、学研と東京書籍は保健から入り、大日本図書と大修館は体育から入る。また、保健と体育の比率が、前者は保健重視で、後者は体育を重視しているという違いがある。

現在、教室で教科書を使うのは圧倒的に保健が多く、教科としての比重は保健の方が重いことから、保健重視の2者を高く評価するのが妥当ということになった。

また、中学の段階で自分の体を知ってコントロールする能力を身に付けることは非常に大事である。そういう視点から各者を見ると、保健を重視し、なおかつ今日的な課題を明確に出しているということで、学研の教科書を高く評価し、2番目が東京書籍というのが、採択委員会が出した結論である。

[保健体育：質疑応答]

教育委員長	保健体育に費やす時間はどのくらいなのでしょう。
事務局	学習指導要領によれば、体育の時間は年間105時間となっており、体育は3年間で267時間、保健は48時間程度と示されています。
採択委員長	その点については採択委員会でも問題になりました。教科書を使うのはほとんどが保健であるということです。
教育委員	保健の授業では順番にこだわることなく、例えば夏には熱中症について学ぶなどできるのでしょうか。教科書はどのように使われているのでしょうか。
採択委員長	3年間で1冊ですから、1年時に渡されますが、各学年の中でそれをどのように使うかは基本的に各学校で判断しておられます。
教育委員長	本来、体育は何のために行う授業科目であるか、定義は決まっているのでしょうか。それとも各教科書でニュアンスに違いがあるのでしょうか。もちろん学習指導要領があると思いますが、特に体力については、若い人たちの体力低下が問題になっていて、文科省も毎年体力検査を行っています。そういう観点から見て、教科書の取り上げ方やウェイトに関して、何か議論はありましたか。
採択委員長	おっしゃったことは非常に大事だと思います。本来、体育とスポーツとは全く違うものですが、教科書の体育編では両者は同義語的に扱われているようで、私も気になっているところです。この点では4者とも差はなかったように思います。
教育委員長	私が見たところでは、特に体力の向上についてはウェイトの掛け方に差異があったという感じがしました。
採択委員長	体育部分でスポーツに関する記述が手厚いのは大日本図書と大修館で、基礎体力の作り方、あるいはその過程でどういうことに気を付けなければいけないのか、ページ数が多い分だけ丁寧に書かれているように思います。
教育委員	学研と東京書籍では、喫煙から薬物乱用まで割いているページ数は同じくらいですが、思春期にはこのあたりの危険が身近に迫ってきます。この辺の表現の仕方や、子どもたちにとっての有効性について違いはありますか。
採択委員長	学研の場合は口絵から入っています。あまり気持ちのよいものではありませんが、そういうことを重視している姿勢の表れかもしれません。教科書を

開いたら、スポーツではなくこんな写真が出ているというのは、ある意味ショックかもしれませんが、そういうことをあえてしてきた学研の姿勢を、われわれとしては評価しました。

教育委員長

よろしいでしょうか。それでは委員で審議させていただきたいと思いません。長い間ありがとうございました。

(採択委員、調査委員 退席)

[保健体育：審議]

教育委員長

保健体育の採択について、ご意見をいただきたいと思いません。

教育委員

採択委員会が推薦されている学研は、体の発育や性機能の成熟等、あらゆる内容が非常に分かりやすく、文章も比較的受け入れやすい書き方をしています。性感染症その他のことについても、かなり詳しく正確に書いてあると思いません。中学生の段階では、このあたりのことをしっかり教えておく必要があると思いませんし、それを教える上で、学研の教科書は比較的使いやすい教材だと思うので、私は学研の教科書を採択したいと思いません。

教育委員

学研の教科書のコラムには、とても面白い話が載っています。インターネットの利便性や、運動で脳が活性化される話、AED のことも入っていますし、太陽光の話などは子どもたちに知っておいてほしいことであり、非常に up to date でいいと思いません。このあたりが充実していることプラス心身の健康等、どうしても知ってほしいことがたくさん入っていて、とても良い教科書です。ただ、授業時間をどう計算しても全部を教えることができないように思われ、それだけが心配ですが、私は学研の教科書を推薦したいと思いません。

教育委員

私も先ほどの委員と同じような意見で、子どもでありながら、すぐに大人になる人たちなので、セックスの話もそうですし、薬物や喫煙は非常に重要な問題になると思いません。その辺について、学研は生々しく具体的に書かれており、薬物や性感染症に関しても非常に詳しく書かれていていいと思いません。本当は触りたくない部分ではありますが、しっかり向き合って教えていかなければいけません。そういう意味では、非常にいいかと思うので、学研を推薦したいと思いません。

教育委員

私も学研で間違いはないと思いません。

教育委員

私も学研がいいと思いません。

教育委員長

先ほど保健の時間を聞いて驚きました。中学生には理解した上で知っておいてもらいたいと思いませんながら、「この教科書を使いこなしてもらえらうか」という感じがしないでもありません。皆様のご意見では学研を推す意見が多数でしたが、よろしいでしょうか。それでは、保健体育は学研教育のものを採択するというにいたします。

本日の予定はこれですべて終了しました。ここであらためて確認させていただきます。美術は光村図書出版、歴史は東京書籍、公民は東京書籍、数学は東京書籍、保健体育は学研教育出版ということになりました。

本日の審議はここまでとして、次回は8月3日(水)午後1時30分からです。どうもありがとうございました。

議案第26号 平成24年度使用教科用図書(中学校用教科書)の採択について(学校指導課)
【8月3日】

種目「理科」

事務局

採択委員長から説明を受ける前に、事務局から報告させていただきます。これまで理科は第1分野と第2分野に分かれていて、それぞれ上下2冊の教科書が作られていましたが、学習指導要領に学年ごとの学習内容が示されるようになったことで、教科書も学年ごとの教科書になりました。

また、学習指導要領の改訂に伴い、学習する内容の順番に強い縛りがなくなりました。そのため同じ1年生の教科書であっても、会社によって取り上げている順番が違います。そういった違いがあることをご確認の上、審議を進めていただきますよう、お願い申し上げます。

[理科：説明の概要（採択委員長）]

理科については5者から発行されている。事務局から説明があったように、これまで中学の理科は第1分野（物理・化学）と第2分野（生物・地学）に分かれていたが、今回の学習指導要領の改訂によって学年ごとに第1分野と第2分野の双方が設けられるようになった。ただし教科書によって、第1分野から入るもの、第2分野から入るものがあり、それが各者の特徴になっている。相対的に5者を比較した結果、啓林館と東京書籍の教科書の評価が高かった。いずれも系統的に分かりやすく作られており、用語の説明においても正確な用語が使われている。

2者を比べると、啓林館には「マイノート」というワークブック的なものが別冊で付いているが、これについては「2冊になっていることで煩雑になるのではないか」という見方がある一方、教科書の中にある知識だけではなく、観察や実験したことを自分で書き込むので「最終的には、これを基にしてプレゼンテーションをするなど、発展的に使うことができるのではないか」という意見があった。プレゼンテーションについては新しい学習指導要領でも重視しているプロセスであり、そのような使い方をすれば、非常に効果的であるということで評価された。

上位2者については、各章の単元の初めに目的がはっきり書かれていて、使いやすい作りになっている。2者とも第2分野から入っているが、頭から教えていかなければならないものではなく、現場の裁量で後半から始めてもよい。ただし、生物・地学から入っていく方が、季節の移り変わり等、いろいろな意味で使いやすいだろうという意見があった。

また、物理・化学は数学との関係が深いので、第1分野から入ると、場合によっては数学でまだ学んでいない数式等が理科で出てくる可能性がある。そういう意味で、東京書籍と啓林館は流れとしても扱いやすいだろうということが副次的な評価の理由としてあった。

また、3年になると第1分野と第2分野ではなく、環境のように総合的な分野が出てくる。その辺の扱いについて、啓林館は今日的な課題の取り上げ方をしており、金沢スタンダードにも出ている「発信力を高めていく」と結び付けて、地域の教材等を上手に使える可能性がある。そういう意味で最も高い評価を得たのが啓林館、その次が東京書籍という順序になった。

[理科：質疑応答]

教育委員

啓林館には「マイノート」という別冊があります。拝見したところ、いいと思いましたが、これまではこういうものはなかったのでしょうか。なかったとすれば、実際に授業していく上で、ノートの取り方や実験結果のまとめ方は各学校や先生ごとに工夫されていたということでしょうか。そうだとすると別冊があることで、逆に縛られてしまうことはないのでしょうか。

採択委員長

前回との比較はしていませんが、別冊になっているものは今までの教科書にはなかったように思います。現場での使い方については、調査委員会での質疑でも出たので、調査委員からお答えいただきたいと思います。

事務局

それでは調査委員から説明させていただきます。

理科調査委員

現状では、理科ノートというものを子どもたちに書かせている学校が50%弱あります。あとは先生方が実験に関する方法や結果考察を書かせるプリン

トを独自に作ってファイルに綴じさせています。

この本については、いろいろな使い方が考えられます。理科ノートはあくまでも実験や観察があって、その結果を考察するものであるのに対して、「マイノート」は用語の基本と、そこから一步踏み込んだ思考力を問うものなので、今までの理科ノートとは少し使い方が違うと思います。

教育委員長

明確な相違点として、啓林館には「マイノート」が付いているということが挙がっています。テキストの1~3年生の総ページ数は、啓林館が762ページ、東京書籍が774ページですが、「マイノート」は176ページありますから、結果的に150ページほど啓林館が多くなります。分量が多ければよいということではありませんが、内容が深まるのは確かだと思います。

例えば1年生の31ページには蒸散についての説明があり、「考えてみよう」には「マイノート」の8ページを見るように指示してあります。つまり教科書の31ページと「マイノート」の8ページを合わせて、蒸散について学ぶ形になっているわけです。

しかし、ほかの出版社が教科書に入れてある中で、別冊に分けて書かなければいけないものなのかという問題もあります。

私は教える側のことは分かりませんが、教える側や生徒の立場も含めて、内容が豊富な方が勝っているという評価なのか、あるいは知識だけではなく、自分で考えたり自習できるという、用途の面から別のファクターを持っていると解釈してよいのでしょうか。

採択委員長

そのことは議論になりました。「マイノート」で新しい事項が付け加えられているわけではないので、そういう意味では「もう一步自分で考えてみよう」「もう一度こういうことをやってみよう」というように、発展的な内容や復習や宿題のようなものが「マイノート」に入っているのだと思います。

一方で、分冊になっていることで煩雑になるという議論もありました。使い方については、先生や生徒の問題になってくると思います。評価が分かれたのは、先生方からこのようなことを心配する意見が出たためです。「今後ほかの教科も含めて、別冊形式が広がってくるのはいかがなものか」といった意見も出ましたが、取りあえず理科の範囲内では、別冊があることで、いろいろなことが定着、あるいは発展しやすくなるだろうということで、最終的にこれが一番いいのではないかと判断しました。

内容そのものの正確さ、関連個所の示し方といった、教えやすさや学びやすさについては、啓林館と東京書籍はほかの出版社に比べてやや評価が高く、この2者を推すということでは一致しましたが、特に「マイノート」をめくっているいろいろな議論があったのは事実です。

教育長

「マイノート」を除いて、啓林館あるいは東京書籍の本を学校で使う際に、どんなことがポイントとしてありますか。

採択委員長

まずは用語の正確さです。理科では日常用語とは違う用語が使われますが、例えば「生態系」や「進化」という言葉を見ると、間違いではなくても、やや正確さを欠くようなものや、誤解を招くような説明をしている教科書もありました。その点、啓林館や東京書籍は非常に正確に作られているという印象を持ちました。

2点目として、系統性や関連性を教科書内部でしっかり表現できていることが挙げられます。東京書籍はほかの教科・種目でも評価が高かったのですが、「このページと ページを見てください」、「にもう一度戻ってみましょう」といった類の表示が非常に上手にできています。

3点目は、各章の単元の初めに何をどのように学ぶかといったことがはっきり提示されている点です。また、特に理科の場合は実験がありますが、実験の安全性に関する記述が冒頭にはっきり示されており、配慮が行き届いて

いる点も評価されました。

教育委員

東京書籍の「学習内容の整理」、啓林館の「学習のまとめ」を比べると、啓林館はそれぞれの説明にページ数が書かれていますし、「マイノート」は最後に解答が書いてあります。ここまで親切なものは、教える立場からすると、かえって邪魔になる気もしますが、助かるものなのでしょうか。

採択委員長

実はそれも話題になりました。解答は大体どこかに書いてあるものですが、啓林館は本当に親切すぎて「ここまで親切なものが本当にいいのだろうか」という議論は確かにありました。どの教科書も問題だけ放り出して、「後は自分で考えなさい」とはなっていませんが、「あそこを見れば解答が出ているよ」と示すことが本当にいいのかという議論があったのは確かです。

教育長

理科では実験や観察が大変重要ですが、それをする上で、現場で使いやすい教科書になっているのかどうか、その辺はどうでしょうか。

事務局

調査委員からお答えさせていただきます。

理科調査委員

啓林館の1年生の29ページに観察の一例が書いてあります。まず子どもたちに見通しを持たせるということで、「観察材料を準備する」「顕微鏡をセットする」というように、一連の流れを最初に明記して、見通しを持たせてから実験に進んでいます。これは新学習指導要領に沿った教科書の作りではないかと思っています。

また、両者に限らず全者とも安全面には非常に配慮していて、目立つマークを使って実験をスムーズに進めやすくなっています。

採択委員長

若干補足させていただくと、実験の安全面という点では、記述は似たような形で、違いとしては、いかにそれが目立ちやすいかということです。安全に関する記述が巻頭にある場合と巻末にある場合では、やはり違います。

また、別の議論になりますが、東京書籍の3ページには「理科室の決まりと応急処置」として服装も示されています。長い白衣がいいかどうかは別として、保護メガネについても書かれていて、実際に学校に保護メガネが配置されているかどうか議論になりました。実はこの点は前回(平成17年度)にも出た問題ですが、保護メガネが必要な実験があることは確かですから、学校に用具が配置されているかどうか議論になりましたが、現在、金沢市内のすべての中学校に必要な機材等が配置されていることは確認しました。

教育委員

今までの教科もそうですが、小学校からの接続が大きく取り上げられているように思います。それについては東京書籍の方がきちんと書いてあったように思いましたが、その辺についてはいかがでしょうか。

採択委員長

小学校との連携以外に、高校への接続についても議論になりました。小学校も学習指導要領の改訂があって、それを受けているのですが、その点については細かくは見ていません。

1年のはじめにまず入っていく分野については、親しみやすい身の回りの環境からということで、生物分野から入っていくのが中学1年生の実態になっているそうです。教科書は頭から使わなければいけないわけではありませんが、第2分野から入った方がいいのではという議論がありました。

高校との接続については、3年生の最後には第2分野や第1分野だけではなく、それらが総合された環境分野が出てくるので、将来的には物理、化学、生物、地学という形で再編成されていくことがあるかもしれません。そういう意味で、啓林館は将来的なことを見据えた内容編成になっているように思いますし、高校への発展的な作り方としてもいいという意見がありました。

教育委員長

それでは採択の審議に入りたいと思いますので、採択委員と調査委員の皆さまは、恐れ入りますが一度退室願います。

(採択委員、調査委員 退席)

[理科：審議]

教育委員長

理科の採択に移りたいと思いますが、ご意見をお聞かせください。

教育委員

啓林館の本は分厚いと思っていたら、中に「マイノート」が入っていました。「マイノート」は子どもたちにとって非常に使いやすいですし、先生方も教えやすいだろうと思いながらお話を聞いていました。使い方はいろいろあるでしょうが、これはなかなかいいと思います。

また、教科書全体を見ていて、写真の使い方や実験で注意すべき点等、注目しやすい形で書かれています。何と言っても見ていて楽しくなるような教科書ですから、子どもたちに理科好きになってもらうにはいい教科書だという印象を持ちました。私は啓林館の教科書を推薦したいと思います。

教育委員

私も啓林館がいいと思います。振り返りや観察や昔の知識など、興味をそそるようなことがきちんと書いてあります。また、先ほど委員が言われたように、全体の配色・色合いが柔らかな感じがして、そういう意味でも啓林館がいいと思いました。

教育委員

私も啓林館がいいと思います。各章ごとの単元の初めに、目的が書いてある点は東京書籍も同じですが、啓林館の方がより大きなことから、これから勉強することを意識させているように感じました。

また、今もご意見が出ましたが、啓林館の方が全般的に見やすいです。「親切すぎるのでは」というお話もありましたが、そのくらいの方が今の子どもたちにはいいのではないかと思います。分かりやすいという意味でも、啓林館の方がいいと思いました。

教育委員

「先人の知恵袋」と「働く人に聞いてみよう」という個所はとても興味深かったです。理科が日々の暮らしの中でどのように利用されているかが、子どもたちに分かってもらいたいと思い、啓林館を推したいと思います。

教育委員長

私は理系の人間ですから、そういう目で見ましたが、啓林館は東京書籍と比べると細かいところにまで気を遣って、しっかりした知識を持たせたいという努力が見られます。例えば数学のときにも言いましたが、単位について2カ所を書いてありました。理系の問題を、数学的な値を用いて考察したりするとき、単位は非常に重要であることも指摘しています。また、100グラムの力をニュートンで現すと、0.98 ニュートンであることも明確に書いてありますし、音の性質で、音の単位であるヘルツを本文で明確に示しています。このようかなり細かい部分で明確さを強調していると思います。

内容的には、台車の作用力を計算する個所があるのですが、啓林館では前の章で学んでいる力の合成や分解を使って、傾斜に台車を置いたとき、傾斜に向かってどういう力が作用するかを推測できるようにしてあります。ところが、東京書籍は後ろの章で力の合成や分解をやっているため、推測ができず、「ばね秤で量ってみましょう」となっていました。構成にもそれだけ細かい配慮がされていることも含めて、よくできた教科書だと思います。

教育委員

最初は、東京書籍が手慣れているというか、きれいにできているなと思って見ていましたが、啓林館の方は単元に入る前にきめ細かくねらいが書いてあり、啓林館の方がいいと思います。

教育長

これから実験や観察が非常に多くなってくると思います。両者ともそれぞれ工夫を凝らして書いてありますが、啓林館の方が深めていこうという工夫がされていると思います。啓林館がよろしいのではないのでしょうか。

教育委員長

それでは、理科の教科書としては啓林館ということによろしいですね。ありがとうございます。理科は啓林館を採択することにします。

種目「音楽（一般）」と「音楽（器楽合奏）」

[音楽（一般）：説明の概要（採択委員長）]

音楽については音楽一般と器楽合奏の2種目の教科書がある。音楽一般は2者から出ており、どちらも3分冊になっている。1は1年生用で、2・3上下となっており、2年生時に2冊配られて、あとはその学年内に、あるいは3年を通じて使われていく。

実は音楽は評価が分かれて、2者とも推薦することになった。教育芸術社の方は、日常生活と音楽をいかに結び付けていくかという観点で割合強く出ている教科書で、教育出版は古典主義的というか、楽理や楽典について丁寧に書かれている。例えばポピュラーミュージックのような現代風の楽曲を取り上げているのが教育芸術社であり、古典を中心とした西洋音楽の楽理を丁寧に扱っているのが教育出版である。

「教科書としては、基礎からしっかり教えたい」というのが調査委員の意見だったが、採択委員会では、「むしろ日常生活とのつながりを重視していく方がいいのでは」という意見になった。教科書の編集委員も、教育出版は音楽研究者や教育者が多く参加しているのに対し、教育芸術社は作曲家や演奏家といった実際に活動されている方が比較的多く、そういうことが編集方針に影響したのではないかと推察している。内容的にもやや現代的な音楽を取り入れて、日常生活との結び付きを重視する姿勢がはっきりしているのが教育芸術社であるが、どちらを重視するかで採択委員会でも意見が割れた。

実は研究委員会では教育芸術社を推す声が強かった。一般的には現在使っている教科書の評価が高くなる傾向があり、教育出版の評価が高くなりそうなものだが、逆転していた。その辺も採択委員会では考慮している。

[音楽（一般）：質疑応答]

教育委員長

学習指導要領の75ページに、A.表現(2)「表現教材は、次に示すものを取り扱う」とあり、「イ.歌唱教材には、各学校や生徒の実態を考慮して、次の観点から取り上げたものを含めること。(ア)わが国で長く歌われ、親しまれている歌曲」ということで、77ページにいくつか挙がっています。そして、「(イ)民謡、長唄などのわが国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取れるもの」とあります。

文章の解釈ですが、「イ.次の観点から取り上げたものを含めること」というのは、(ア)と(イ)の両方を含めなさいというandの意味なのか、あるいは(ア)または(イ)を含めなさいというorの意味なのでしょう。

というのも、教育出版では民謡が歌唱に含まれているのですが、教育芸術社では民謡は歌唱に含めていません。私は後者のorであろうと思いましたが、解釈をお聞かせください。

採択委員長

そこまでは読み込んでいないので分かりません。私も分からなかったのは、教科としての音楽の教科書にはもう一つ、器楽合奏という種目があるのですが、中を見ると合奏だけではなく、いろいろな要素が入っていました。学習指導要領と2種目の教科書の関係は、1種目ではいけないのか、どこで器楽合奏と音楽一般の線引きがされているのかということも含めて、私もよく分かりません。学習指導要領は音楽という教科について書かれたもの

であるので、何をどちらの種目で取り上げるかということについては、例えば2種目を通じて和楽器を義務付けたり、歌う方でも「日本の楽曲をなるべく多く取り上げなさい」ということが言われていることは意識していましたが、教育委員長がご指摘になったところまでは考えていませんでした。

事務局 事務局から今の学習指導要領のとらえ方について説明させていただきます。イの「次の観点から取り上げる」というのは、(ア)(イ)両方を指しています。

教育委員長 要するに両方取り上げなさいということですね。そうすると、教育芸術社は民謡が入っていなかったと思いますが、どのように解釈すればよいのでしょうか。

教育委員 1年の46ページに「日本の民謡」があります。

教育委員長 鑑賞ではあるのです。しかし、歌唱と書いてあるのですから「歌ってください」ということでしょうか。新しい学習指導要領の「日本の歌をもう少し教えてください」という方向付けなのかなとは思いますが。「和楽器を必ずやりなさい」ということと同じかもしれませんが、これは一応学習指導要領の検査を通過しているはずなので、不思議に思いました。

事務局 今のことに関して、事務局から少し説明させていただきます。今回の学習指導要領の改訂では民謡や長唄が取り上げられていますが、「歌うことを大切に」ということが明示されました。これを受けて、教育芸術社では1曲扱っており、教育出版は4~5曲扱っています。

教育委員長 芸術社も民謡は1曲ありましたか。

事務局 教育芸術社の1曲は「ソーラン節」だそうです。

教育委員長 一応目を通したつもりだったのですが、あるんですね。

事務局 訂正させていただきます。歌唱教材ではなく、鑑賞教材として「ソーラン節」が挙げられているということです。

教育委員長 それは分かっているのですが、学習指導要領には「歌唱として」と書いてあるので、歌わせるということだと思いましたが、そういう解釈ではないということでしょうか。鑑賞だけでもよいのでしょうか。

教育委員 1年の46ページには「歌ってみよう」とは書いてありますね。

教育委員長 歌唱教材というと、具体的に歌うものと思われるのですが。

教育長 教育芸術社も、46ページに各地域の代表的な民謡等を掲載していますが、地域の実情に応じて、こうした曲を取り上げて歌ってみようということになっているのではないかと思います。

教育委員長 全体的に見れば、教育芸術社は歌唱や合唱に力を入れていて、教育出版は民族的なところに力を入れているように思います。力を入れているというより、そういうものを取り込んでいるところが見られるような感じがしました。

調査委員会の結果は、教育出版を高く評価された先生が多かったということですが、調査委員会の観点と採択委員会の観点で、特に議論になったこと

採択委員長	はあったのでしょうか。
教育委員	この種目に関しては市民の意見はあまりないので、参考にさせていただく資料は調査委員会と研究委員会の意見です。研究委員会の方は各学校の音楽の先生が意見を寄せられることが多く、研究委員会の考えは調査委員会の考えと逆になっていたのも、そういう意味で現場の先生方の意見も二つに分かれています。
採択委員長	教育芸術社の2・3上ではオペラと歌舞伎を並べて紹介しており、この紹介の仕方は非常に面白くて分かりやすいと思います。もちろん教育出版もオペラや歌舞伎を紹介していますが、並べて紹介しているということで、生徒たちにとって分かりやすいというご意見はあったのでしょうか。
採択委員長	いわゆる鑑賞について、教科書で紹介されていることはさることながら、鑑賞教材の現物を聴かなければ話になりません。ただ、採択委員会では、その実物は評価対象としていません。しかし、現場で本当に鑑賞できるのかということが問題になりました。 現在CDについては、教科書に対応したCD教材・DVD教材がある程度用意されているそうです。それが前提で鑑賞教材が教科書に提示されているのですが、新しく教科書が替わって、付属教材はまだできていないということでした。教科書に載っているものは大体学校で見たり聞いたりできるというお話は伺いました。
教育委員長	よろしいでしょうか。次に音楽(器楽合奏)に移りたいと思います。ご説明をお願いします。

[音楽(器楽合奏):説明の概要(採択委員長)]

器楽合奏は音楽一般と同じ2者から出ており、3年間を通して1冊を使う。両者とも編集者は音楽一般と同じなので、個性もそれぞれ共通している。

その上で教育芸術社を高く評価したのは、一つには楽器の奏法に関する説明が丁寧で分かりやすいからである。指使い、楽器を持つときの姿勢等、奏法に関する部分は教育芸術社の方がうまくできていると評価された。

また、今回の学習指導要領の改訂に伴って、和楽器が大事にされるようになったが、楽器の中で何が重点的に取り上げられているかを見たところ、アルトリコーダー、ギターまでは同じで、以下教育出版は打楽器、和楽器となっていた。リコーダーは個人が所有するものでよいが、それ以外の楽器は教科書に載っていても、現場に配置されていなければ意味がない。例えば各学校でどのくらい配置されているか尋ねたところ、ギターは各学校に何台か配置されているようだ。

和楽器については、特に金沢市では最近いろいろと整備していただいているが、問題は教える方がおられるかどうかである。それについては、先生方が練習して教えておられる場合もあれば、地区のボランティアのような方をお願いして来ていただいている場合もある。幸い金沢は和楽器の整備、教え手の配置に関しては十分対応できるだけの現状であるということは確認した。

その上で差があるとすれば、奏法をどのように習得するかという教科書として基本的な内容だが、その点においては教育芸術社の方が少しいいということだった。なお、パーカッションについては、現実的な演奏の対象になりにくいのではないかという意見があった。

種目が別なので、音楽一般と器楽合奏で出版社が違って構わないが、現在は一般が教育出版、器楽合奏が教育芸術社と分かれている。研究委員会からの意見(各学校からの意見)を見た結果、二つはそろっていた方がやりやすいという意見があることも議論になった。

このような理由から、採択委員会では教育芸術社の方をより高く評価した。また、この教科に限っては、2種目の教科書の出版社は合わせた方がよいのではないかと採択委員会とし

ての意見である。

[音楽（器楽合奏）：質疑応答]

教育委員

これまで学校で器楽を教える際に、使う楽器が学校ごとに違うということはありませんでしたか。リコーダーは自分で持っているのですが、ほかはこの学校も同じ楽器を使わせているのか、そうであれば、どういう楽器を実際に使わせているのでしょうか。

事務局

基本的に小学校ではソプラノリコーダーという小さな笛を使っていますが、中学生になったら大きめのアルトリコーダーを使っています。

教育委員

あとの楽器はどんなものを使っていますか。

教育長

琴をやっているところ、ギターをやっているところ、この辺は学校の裁量で行っているので、学校によって若干違います。

事務局

中学においてはアルトリコーダーや、篠笛をやっているところもあります。おおむねよく似た傾向がありますが、学校ごとに特色を生かして、打楽器の中でも選択しながら、太鼓を中心にやっているところ、琴を中心にやっているところと、ばらばらといっても選択の余地がある状況ではないかと思います。

教育委員

教科書を見ると、いろいろ楽器が載っているほどだと思いますが、実際に学校で触ったり、音を出す機会がないとすると、器楽の教科書だけではどうなのかという気がします。学校によって使えるものが違ったり、生徒によって違うということであれば、中学生に器楽を教えるときに、何がポイントになるのでしょうか。「いろいろな楽器を触らせて、その中で自分に合った楽器を見つけられる機会があつてよい」と思って、この教科書を見せていただいたのですが、物理的に楽器が学校にそろっていないとなると、先生がご自分の得意な楽器を中心に紹介しておられたり、教科書で「こんな楽器がありますよ」と教えている程度であると理解してよろしいでしょうか。

事務局

ほとんどの子どもたちは、まずアルトリコーダーを実際に鳴らして学習に参加しています。また、琴や太鼓についてはほとんどの学校に整備されているので、実際に触ってどんな音が出るのか、体験して知ることができます。

また、教育プラザ富樫にも貸し出し用の和楽器をそろえているので、プラザから必要な楽器を借りて、音を出したり触ったりということはしています。

教育委員

音楽は1週間に1回ですよね。教育芸術社には私の大好きな尺八の藤原道山さんが載っていて、旬の人を載せてセンスのいい教科書だなと思って見ていたのですが、音楽一般で歌唱を勉強する週もあれば、器楽の週もあり、とても限られた時間の中で和楽器を手にとったとしても、どんな授業になるのか、想像しにくいのです。例えば、音楽室をいくつかに分け、こちらで尺八を、あちらで琴を、そこに地域の先生が来られて篠笛のコーナーがあつたり、そんな感じなのではないでしょうか。

学校総合訪問でたまたま聞かせていただきましたが、洋楽器ばかり、いろいろな楽器が入って素晴らしい演奏をしていたクラスもあれば、全員がギターの練習をしているクラスもありました。和楽器の練習をしているところに一度も出会う機会がなく想像がつかないので、説明していただけますか。

教育長

学習指導要領では「和楽器の指導については、3学年を通じて1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒がわが国や郷土の伝統音楽の良さを味わう」となっています。教科書ではいろいろなものを提示しながら、学校の実状に応じて、いろいろな楽器にチャレンジしていったり、何かの楽器に特化したりして

います。

教育委員長

その点については、学習指導要領が「3 学年間を通じて、1 種類以上和楽器を扱わなければいけない」というくらい強いことを意味するのか、もう少し気楽なものなのか、私も気になりました。指導する立場からは、どのように解釈しておられますか。あるいはどのように解釈すべきなのでしょう。学習指導要領の 78 ページ(2)に書いてある点についてです。

事務局

今言われたとおり、1 種類以上の楽器の表現活動をすることになっているので、最低一つ以上は取り上げなければいけません。何を取り上げるかということより、「子どもたちがわが国、あるいは郷土の伝統音楽の良さを味わうことができればよい」となっていますので、いろいろなものを取り上げて体験するより、一つのものを取り上げながら、わが国の伝統音楽の良さを感じ取らせることに主眼が置かれてきているととらえていただければと思います。

教育委員長

確かに和楽器を全員にそろえるとなると大変なので、演奏を聴いてもらったり、あるいは触ったりというように、状況によっていろいろな場合があるだろうと思います。ただ、学習指導要領としては踏み込んで、和楽器というものを西洋楽器と対比して体験することを目指しているのかなと私は解釈しました。予算にもかかわることかもしれませんが、音楽という種目の中で、テキストに書いてあるだけでは意味がないと思うので、そういう意味ではテキストが使いやすく、それを見れば演奏しやすいようなことが書かれていれば、それなりにメリットがあると思います。

採択委員長

今の議論と同じようなことが採択委員会でも出ました。たまたまこの種目の調査委員の方の中学では、ギターが 20 台、琴が 10 台あるということでした。琴の演奏は、音楽の先生がなさることもありますが、地域の方にボランティアで来てもらっているというお話でした。

恐らくこれは大規模で、地域的にも恵まれた学校の例かもしれませんが、われわれとしては、「指導は十分できる体制にあるのだろう」と理解しました。

教育委員長

ほかにご質問がなければ、採択に入らせていただくので、採択委員・調査委員の先生方は、しばらく退席願います。

(採択委員、調査委員 退席)

[音楽(一般):審議]

教育委員長

音楽は二つに分かれているので、まずは音楽一般について、ご意見を伺いたいと思います。

教育委員

私は教育芸術社を推薦したいと思いました。1~3 年生で「ふるさと」をそれぞれ合唱するようなスタイルがありましたし、日本の伝統芸能で言うと能や歌舞伎についてかなり書かれていて、とっつきやすさというか、「なるほどな」と思って楽しく見たのは教育芸術社の方です。

また、両者とも「仰げば尊し」が入っていますが、教育芸術社は 3 番目まで歌詞が書かれていたので、こちらの方がいいかなと思いました。下の方には歌詞の説明も入っていましたし、ほかにも取り上げられている曲が、こちらの方がいいように思ったので教育芸術社を推薦します。

教育委員

私も教育芸術社を強く推したいと思います。和楽器を非常に丁寧に説明していて、器楽の方でも三味線の構造を分かりやすく説明しています。触れる機会がなくても、写真を見るだけで随分違うだろうと思います。

教育委員	<p>さまざまなプロの音楽家を取り上げられていますが、どなたを取り上げるかは、その会社の考え方があるのでしょうか。教育芸術社は旬の人々が入っていて、うれしく思いました。写真の使い方も上手で、亡くなられている作曲家や作詞家の写真も載り、どんな方であったかがよく分かります。</p> <p>また、同じようなルーツを持つオペラと歌舞伎の両方を見ることで、人生が楽しくなることを、子どもたちに感じてもらいたいので、この順番はとても大事だと思えます。歌舞伎の後に能や文楽等いろいろあり、これらを理解するのはなかなか難しいのですが、写真がきれいなので、「こんなものもあるんだ」ということを子どもたちが分かってくれて、日本の国の素晴らしさを感じてくれることを願っています。そこまで感じてくれるかどうかは分かりませんが、写真がきれいだというのはとても大切なことだと思い、私は教育芸術社を推したいと思えます。</p>
教育委員	<p>教育芸術社の方でいいと思えます。ただし、個人的な趣味を言わせていただくと、私が生徒だったら、教育出版の方がうれしいだろうと思えます。理由の一つとして、楽譜の中にコードが入っているものが非常に多いのです。音符だけを見てメロディが浮かぶ人間がどれだけいるのかと考えると、中学生ぐらいになれば多少ギターを弾く子どもも出てくるでしょうから、この辺は配慮が利いていると思えました。</p> <p>また、先ほど採択委員長が教育出版は古典的とおっしゃっていましたが、1年生の48ページには、リズムを教えるのにラップを使っていて、これもなかなか気が利いていると思えました。それからポピュラーミュージックを紹介している見開きのページでは、教育出版の方が紹介の仕方が正しいのです。</p> <p>私の個人的な感覚はどうであれ、教育芸術社が推薦されるというのは、教育の中で必要なことが網羅されているからだろうと思えます。</p>
教育委員	<p>教育芸術社がよいと思えます。</p>
教育長	<p>調査委員会の方は教育出版について、それぞれの単元の目的等が明確に書いてある点など、評価されたのかなと思いつつ見ていました。それぞれいい教科書ですが、私は、教育芸術社には全校合唱として「ふるさと」があったことが、今の時代にはとてもいいことだと思えました。</p>
教育委員長	<p>多くの方が教育芸術社の方を推されているようで、私も採択委員あるいは学校の研究委員会が推されている教育芸術社がよいと思えます。ただ、楽譜に表すのが難しい民謡が教育出版にしか入っていないという点では、教育出版を評価したいと思えました。</p> <p>それでは、全体としては教育芸術社ということで、よろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>異議なし。</p>
教育委員長	<p>それでは、音楽一般は教育芸術社ということにしたいと思えます。</p>
[音楽(器楽合奏): 審議]	
教育委員長	<p>次に器楽合奏の分野ですが、いかがでしょうか。</p>
教育委員	<p>内容的なことからも、教育芸術社がよいと思えます。</p>
教育委員	<p>私も同じ意見です。教育芸術社がよいと思えます。</p>
教育委員	<p>特に教育芸術社は和楽器についてかなり詳しく書いてくれていて、「三味線のさわり」に関する記述などは、保護者の方も感心されるのではないかと思う</p>

ほどですので、これを推したいと思います。

教育長

私も教育芸術社がよろしいのではないかと思います。

教育委員長

私も教育芸術社の方が、写真等も見やすいのでいいと思います。やはり楽器ですから、使い方が明確で見やすいということは一つの要素になると思いますし、リコーダーについても非常に丁寧に書かれていて、自宅学習ができるような点も評価できます。

よろしいでしょうか。それでは、器楽合奏については教育芸術社を採択することによってよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育委員長

それでは確認します。音楽一般については教育芸術社、器楽合奏についても教育芸術社ということです。

次に技術・家庭についてですが、これも二つに分かれていますので、最初は技術についてお願いします。

種目「技術・家庭（技術分野）」と「技術・家庭（家庭分野）」

[技術：説明の概要（採択委員長）]

技術も家庭も3者から出ている。1～3年を通して使っていくが、実際には技術・家庭という教科で、割り当てられている時間は1週間に1コマなので、半々にやっていくなら2週間に1コマである。分野的には材料と加工法、エネルギー変換に関する技術、生物育成、情報に分かれている。

3者の中で評価が高かったのは東京書籍で、次に開隆堂であった。東京書籍はどの教科・種目も上手に作っているが、他の教科、特に理科との関係を適切に指示している。また、環境問題に対するスタンスが冒頭に取り上げられていることを含めて非常に丁寧に考えられている。また、言葉そのものは使っていないが、PDCAサイクルに関する考え方を冒頭に取り上げていて、技術というものの本来の考え方をしっかり打ち出している。同じく安全に関しても冒頭の4～5ページを使って打ち出しており、それらを含めて高く評価した。

開隆堂については、特に情報モラルに関する記述が大変丁寧である点が高く評価された。また、技術が基本であるという考え方を冒頭で行っているほか、PDCAサイクルに関する基本的な考え方を明示している点も高く評価された。

これらに比べて、もう1者の教育図書は、ややこのあたりの考え方が弱いという評価になった。東京書籍と開隆堂の2者は評価が割合近く、特に環境に関する記述を高く評価するという点で、東京書籍を最も高い評価とした。

時間配分に関して訂正する。1～2年では技術と家庭それぞれが週1回。3学年になると合わせて1回。技術と家庭を等分に配分していけばという仮定の下、1週間に1回ぐらいになっている。そういう限られた時間の中で技術と家庭が教えられていくことになる。

[技術：質疑応答]

教育委員

以前は開隆堂が使われていたと思いますが、今回は東京書籍を推薦されています。これまでの開隆堂に比べて、今回の開隆堂は少し評価が落ちたのでしょうか。あるいは東京書籍がそれ以上に評価を上げたのでしょうか。

採択委員長

前回のものとの比較は行っておらず、今回の3冊を見比べただけでの比較です。

教育委員

そうすると、教える先生の立場から言って、教科書が替わることはさほど

問題ないということでしょうか。

事務局

調査委員の方からお答えいたします。

技術調査委員

特に教科書が替わるからということで、指導の仕方が大きく変わることはないと考えています。

採択委員長

その辺については、採択委員会としては考えませんでした。学年進行上は配慮が必要かと思っています。

教育委員

先ほどの時間配分については、かなりボリュームがありそうですが、実際にこれらすべてを教科書で読んで実習していくとなると、教える側として、時間的にも技術的にも相当難しい問題があると思います。そのあたりについて、教科書を選ぶ上で考慮されたことはありますか。

採択委員長

はい。全部で4分野あるわけですが、「それを均等にやられるのですか」ということは、採択委員会の席上でも、調査委員の先生方との議論の中でも出ました。その結果、いい悪いは別として、めりはりを付けざるを得ないというのが実状で、すべての学校がそうであるかは分かりませんが、例えばこの学校でも生物育成の分野がやや圧縮されているようです。教科書によっては海洋生物の育成を取り上げているものもあり、どうしても「見ておいてください」で終わってしまうことがあるというお話は何いしました。

教育委員

学校訪問のときに、子どもたちがコンピューター室でいろいろな作業をしていたのですが、あれは技術の第4編の情報の授業だったのでしょうか。

また、先生方は必ずこの順序で授業を進めていかれるのか、それとも「まずコンピューターが使えるようになろう」ということで、情報から入ることもあるのか、教科書はどこから入ってもよいのか、伺いたいと思います。

採択委員長

私もコンピューターというか、情報関係のものが教科としてどこに入っているのか、気になっていました。数学でも一部ありますし、理科にもあります。ただ、実際にパソコンの機能を知って使いこなすというか、扱っていくという点では技術になるのかなと思っています。そういう意味から、モラルの問題も含めて扱っているようです。

教育委員がご覧になったのが何の時間であったかは分かりませんが、例えば東京書籍の情報に「デジタル作品を設計して製作して」とありますが、本当にそこまで入れるのかというと、相当無理があるように思います。現在市内の中学校では、機器はかなり整備されているようですが、中学生が現実どこまでやっていくのかということについては、現場の方に伺わなければ分かりません。

事務局

それでは調査委員から説明させていただきます。

技術調査委員

情報に関しては、これまで教科書がなかったもので、技術の情報で扱うことが多いです。前回の教科書に比べると、基本的な操作部分が今の教科書の方ができていますが、そこは今まで小学校でやられていたので、中学では委員長がおっしゃったように、情報モラルの部分を多めに取っています。

また、教科書どおりの順番でするかどうかにについては、学習指導要領では、最初の部分はガイダンスということで、大枠部分のみ最初に行うように示されています。その後の順番は特に示されていないので、例えばガイダンスのあと情報の分野を数時間やって、前にある技術加工をするということでもよく、学校の実状等に任されています。

教育委員長	<p>関連してお聞きしたいのですが、材料加工で製作するところを東京書籍と開隆堂で見比べると、開隆堂の 53 ページには「木材でものを作ろう」というタイトルがあって、木材で行う手順に従って書かれています。一方、東京書籍の場合は 68 ページにあるように、コラムの一つとして木材のけがき、金属のけがきについて、加工工程に分類して並列的に書かれています。実際に木材で何かを作るプロセスを授業の中で行うとすると、きちんと加工の手順が書いてある方が分かりやすいという感じがします。</p> <p>ただし、「けがきというものを勉強するんだよ」という座学であれば、比較するという意味で、コラム的な書き方もよいかという気はします。実際に作る場合には使いづらいたらうという感じを受けましたが、技術の授業で教科書を使ってものを作ることはあるのでしょうか。</p>
技術調査委員	<p>学習指導要領によると、材料加工となっており、特に木材に限定しているわけではありません。指導の中では木材が一番扱いやすいということで、木材を中心に扱っています。例えばご質問にあったけがきの場合、木材のけがきと並行して、金属やプラスチックのけがきについても併せて作業の中に入れて授業を展開した方が、子どもたちも分かりやすいと思います。</p>
教育委員長	<p>私がお聞きしたのは、具体的に木材で実際にものを作ることをやられているのかどうかです。学校によっても違うでしょうし、作るという意味では金属加工よりやりやすいでしょうから、実際に作るということは、先生のご経験ではいかがでしょうか。</p>
技術調査委員	<p>木材が主ですが、金属の部分もその一部として扱っています。</p>
教育委員長	<p>ということは、具体的に何かものを作るということがあるのですね。</p>
技術調査委員	<p>あります。例えば本校の場合はいすを作っていますが、いすの中には金属の部分が取り入れられています。</p>
教育委員長	<p>私は工学関係なので、今挙がっている東京書籍と開隆堂をそういう目で見ると、開隆堂の方が中身が濃くて詳しいと思いますし、新しいものを取り入れている上、かなり高度な部分まで入れてあり、盛りだくさんだと思います。</p> <p>それに対して東京書籍の方は、かなり構成がすっきりしていて、図が分かりやすいのです。取り上げられている例題も分かりやすく、ステップを追って書かれています。そういう意味では、理解しやすいのが東京書籍の特徴で、開隆堂は詳しいというのが一つの特徴であろうと思います。</p> <p>問題は、これを使った先生方が、どちらが使いやすいと感じるのかということだと思います。そういう意味では、学校研究委員会で開隆堂の記載が多いのは、バラエティに富んで深く入っていて、難しいけれど、こちらの方が取捨選択しやすく、使いやすいと判断しておられるからではないかと思ったのですが、その辺についてはどのようにお考えでしょうか。</p>
採択委員長	<p>研究委員会から上がってくるご意見は、基本的に各教科担当の先生方のご意見であり、そうするとどうしても現在使っておられる教科書の評価が高くなる傾向があります。問題はそれが逆転した場合で、そのような場合は特に注意して見てきました。</p>
教育委員長	<p>それでは、次に家庭についてご説明をお願いします。</p>

[家庭：説明の概要（採択委員長）]

家庭も時間的な配分は技術と同じで、技術・家庭という教科の中の一つの分野になる。これも

同じ3者が出版しており、その中で東京書籍の評価が最も高く、開隆堂がそれに次いでいる。技術と家庭は、音楽のように一つの出版社にそろえた方がよいといった意見は一切なかった。東京書籍を高く評価した最大の理由は、目次を並べてご覧いただくと分かりやすいのだが、家庭の内容は食、衣・住、家庭・家族・個人の成長、消費生活・環境と4分野に大別される。その中で東京書籍だけが食を冒頭に持ってきていて、ほかの2者は家庭・家族から入っている。

採択委員会では家庭科の意義についての議論が出たが、学習指導要領も、自立ということを非常に大事にしている。中学生の時期には一人の人間として少しずつ自立していくが、普通は高校生ぐらいまでは家庭の中で育つ。そういう中で、自立していくためのプロセスとして大事なことは何かを考えて、まず食の分野から入ること、それも調理の技術うんぬんより、人として自立していく上で、食を冒頭に持ってくる編成に特色があると評価した。教科書としては、四つの分野の何を最初に持ってくるにも構わないが、教科書の流れの中で、自立を促すために一番身近なテーマとしての食を冒頭に持ってくるのは、一つのスタンスとして評価できるのではないかと考えた。

内容的に大きな違いはないが、家族・家庭のところでは東京書籍だけが「家族・地域」と、「地域」を見出しの中に入れていて、地域社会に対する考え方、地域の絆についての考え方をきちんと身に付けてもらうために、東京書籍はその部分をやや大事に扱っているのではないかと評価した。ついでに言えば、最大の問題である高齢化や少子化の問題をきちんと扱ってほしいと考えるが、その辺は公民との関係が大事になってくると思う。実はこの問題についてはどこの会社もきちんと扱っていないのだが、これは学習指導要領との関係で仕方がない。その中で地域というものを前面に押し出していくという意味では、東京書籍は評価できるのではないかと思う。

これに次いで開隆堂を高く評価したのは、各テーマの中で生徒たちの興味を引いて、いろいろな意味で自主的に考えていく素材になるようなコラムやコメントが多用されていること、環境の問題を大きな問題だけでなく、身近な素材を取り上げながら比較的丁寧に扱っていることを評価した。

[家庭：質疑応答]

教育委員長

どこから教え始めるかという話で、東京書籍は食から入り、開隆堂やほかの者は家族・家庭から入っているものが多いということですが、学習指導要領には「家庭分野の内容の『A 家族・家庭と子どもの成長』の(1)「自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること」については、それぞれ小学校図画工作科、家庭科などの学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるために、第1学年の最初に履修させること」と述べられています。

最初に書いてあるから最初に入るというわけではないのかもしれませんが、学習指導要領にあるように、家族・家庭は第1学年の最初に入るのだろうと思って見ていました。学習指導要領の指摘の問題と、本の中の順番等について、どのように解釈されているのでしょうか。

採択委員長

その部分については見落としていたかと思います。ただ、現場で調査委員の方とお話ししましたが、そのときには先ほど申し上げたような議論があったように記憶しています。

事務局

その件について、調査委員から説明させていただきます。

家庭調査員

まず、1年生の初めにガイダンスという時間を2~3時間持っています。これは東京書籍であれば12~13ページ、11ページで、小学校からの学びを中学校へ橋渡しするために、家族の在り方、家庭と家族の中の学びとして衣食住と消費について学習しているので、きちんと入っています。

東京書籍と開隆堂の違いがある教科書のスタートの部分についてですが、年間指導計画の変更や生徒の発達段階に合わせて、例えば金沢市の場合、家

族と家庭生活と自分の在り方を学ぶには、1年生が学ぶには早すぎるので、2年生になってから深めたいという思いもあって、一番学びやすい食から入っていくというねらいがあります。東京書籍の場合はそういうねらいがあって、スタートに食を持ってきているわけです。

教育委員長

東京書籍の6～7ページに、家族との係わり合いというものが少し入っているので、このあたりで話をされるのかなと思ったのですが、学習指導要領の中身としては、家族・家庭と子どもの成長という大きいくりがあって、その中の1項目ですから、そこを最初に持っていく方がスムーズな感じがしました。現場ではこの教科書を使っても、ガイダンスの中で学習指導要領に基づいているという解釈だというお話ですね。

教育委員

野町小学校だったと思いますが、行事表の中に地域の人が赤ちゃんを連れてきて、授業をするということが書いてありました。それは家庭科の家族ということに絡めて行われているのでしょうか。それとも全く別の授業なのでしょう。

教育長

野町小学校では「赤ちゃん登校日」を特別活動あるいは総合的な学習の時間に行っています。ですから特に家庭科というわけではないと聞いています。

採択委員長

今の話題について採択委員会で議論になったのは、核家族が進んで、中学生が物心ついて以降、自分の周りに乳幼児がいるとか、高齢者がいるという環境を大多数の生徒が経験していないということでした。それをどうやってカバーしていくかということについて、「紙の上には書いてあるけれど、難しいだろうね」という議論は採択委員会の中でも出ました。

これは教科書を越えた話になりますが、「高齢化の問題などが抜け落ちていっているのではないか」という話も出ました。

教育委員長

先生方からご覧になって、教えるときに特にいいと思われるポイントはありますか。われわれは、それが一番大切であると思っているので、何かご指摘があればお話してください。

採択委員長

例えば金沢大学の家庭科の教員養成課程には、実は家族・家庭の専門家はいません。私は文学部で文化人類学をやっていたので、「おまえは家族のことが分かるだろうから家庭科教員養成課程に講義をしにきてくれ」と頼まれて、何度か行ったことがあります。そういう中で家庭科教員養成をやっているので、なかなか難しいと思います。

そんな中、「経験の浅い先生方でも教えやすい教科書は何だろうか」ということも考えて評価してきたつもりです。

教育委員長

そういう意味で東京書籍を推したいということですね。ほかにないようでしたら、採択に移りたいと思います。採択委員の方、調査委員の方は恐れ入りますが、退席していただきたいと思います。

(採択委員、調査委員 退席)

[技術：審議]

教育委員長

それでは技術と家庭それぞれについて、採択の議論を進めたいと思います。まずは技術について、採択委員長の説明等も踏まえてご意見がありましたらお願いします。

教育委員

教育委員長がおっしゃったように開隆堂は詳しく書いてありますが、見て

いるとかなり字が小さく、盛りだくさんすぎるような気がしないわけでは
ありません。ネットワークの話など、相当詳しく記述してありますが、実際に
子どもたちに教える際に、全部教えることができるのか、理解してもらうだ
けの時間があるのかと考えて、教科書として見た場合、理解のしやすさでは
東京書籍の方がよいという印象を持っています。非常に甲乙付けがたいので
すが。

あとはどうやってこれを生徒たちに教えていくのか、先生方の技量も問わ
れるでしょうが、教えやすさという点から東京書籍を推す声が現場からあ
れば、それはそれで重視して、東京書籍でいいと思います。

教育委員長

結局、調査委員会と学校現場からの意見が分かれたのですよね。開隆堂の
方が詳しくて中身も濃いのですが、教えきれぬのかということに対して、学
校現場がこちらを取ったということであれば、現場の先生にとってはその方
がいいというのも、一つの判断としてあるように思いました。

私が思ったのは「盛りだくさんで、これは駄目だ」という、かなり否定的
な答えが出てきてもいいのかなということですが、調査委員会の判断は違っ
ており、採択委員会としては調査委員会と同じものを推奨しています。

いずれにしても決めなければなりませんから、ご意見があれば出して
いただきたいと思います。

教育委員

開隆堂の教科書は本当に丁寧に書かれていて、どちらを採っても変わら
ないのではないかと思います。あとは先生方がどのようにこれを使って教えて
いかれるのか、そこにかかっていると思います。私は開隆堂にしたいと思
います。

教育委員

先ほど調査委員の先生が、どちらでもできるとおっしゃっていたので、ど
ちらでも大丈夫なのでしょうが、これは時数が少ない授業ですから、先生の
使い方次第だと思います。そういう意味では、先生がポイントを拾いやすい
構成にしてあるのは東京書籍で、東京書籍はそういうことがうまいなとい
う感じはしました。

一つのことを授業で作る場合、開隆堂は便利なのでしょうが、現実的には
さまざまなことをするのでしょうから、いろいろな作業を分けて書いてある
方が使いやすいのかもしれない。

全体的に開隆堂は思いがあって、味があると思って見ていたので、好みで
言えば開隆堂ですが、使いやすさでは東京書籍かなと思ったので、東京書籍
でよろしいのではないかとというのが私の意見です。

教育委員長

今のところ、意見が二つに分かれているようですが、両者とも極端な差は
ないけれど、どちらかというところ東京書籍がプラスの評価がされているとい
うのが採択委員会の結論です。また、調査委員会の方は、票に表れた形で言
うと東京書籍を優位とする評価が多く、「きわめて」は5対3くらいでした。

教育委員

例えばサントリーが開発した「青いバラ」が両方の教科書に載っています
が、東京書籍の方が明らかに写真が美しく引き込まれてしまいます。開隆
堂の方は何だか紫っぽい写真になっていて、どうしてそうなるのか不思議に
思いました。やはり子どもたちの心をつかむのが本当にうまいのでしょうか。
そういうところはいいなと思いつつ、開隆堂の真面目さを評価しました。

教育委員長

そういう意味で東京書籍は教科書づくりが洗練されており、すっきりして
見やすく分かりやすいという点では確かに評価できると思います。

学校側からの評価(資料B)で最も両者の教科書で差があった点を見ると、
現場の先生方は「興味関心を持って学ぶ」という点で、かなり多くの方が開
隆堂を高く評価しておられます。現場の先生方は、開隆堂の内容の豊富さ、

正しさ、突っ込んでいるところを評価しているのでしょうか。ただ、調査委員会では東京書籍の評価が高くなっているので、いろいろな見方があるということだと思います。

教育委員

食については東京書籍の方がかなり詳しくいろいろなメニューを出していますし、技術については法隆寺の五重塔の耐震性について詳しく書いてあり、面白いと思って見ていました。どちらかという、やはり東京書籍の方が受け入れられやすいと思います。

教育長

先ほどから出ているように、味があるのは開隆堂だなと思って、捨てがたくて見ていましたが、基本的なことを限られた時間内にきちんと押さえるということでは東京書籍になるのではないかと思います。例えば、木材の切断等はどちらも工夫されていますが、1枚のページの中に安全についても入れながら、比較的分かりやすく表されているかなと感じました。

教育委員長

ご意見を出していただきましたが、東京書籍の方をよしとするご意見が多かったように思います。それでは、技術・家庭の中の技術に関しては、東京書籍を採択するというところでよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

[家庭：審議]

教育委員長

それでは次に進みたいと思います。技術・家庭のうちの家庭ですが、これも採択委員会からの推薦としては、東京書籍と開隆堂になっていますが、採択に関してご意見をいただければと思います。

教育委員

これも採択委員会からは東京書籍ということですが、レシピの書き方や料理の仕方等の内容について比べると、私が見た感じでは東京書籍の方がはるかに分かりやすく、作ってみようかなという気分になります。

また、東京書籍の100ページには和服について、たたみ方といったかなり細かい部分まできちんと記載されていますが、開隆堂には書いてありません。教科書を開いて見ていって、大変興味を引かせる書き方になっていますし、内容的にもかなり生き生きしている気がしたので、東京書籍を推薦したいと思います。

教育委員

同じことの繰り返しになるのですが、東京書籍は教科書づくりが上手です。ただし、開隆堂の真面目さは本当に捨てがたく、例えば140ページの「食糧を世界中の人の視点から考えよう」といったものを読めば、世界にはさまざまな国があり、私たちは本当にもったいないことをしていることが分かります。また、コラムには本当にいい話が詰まっています、捨てがたいと思っています。

教育長

私も開隆堂は捨てがたいところがあります。例えば「手作りのお弁当を作ろう」のページがあるのです。だからこちらがいいというわけではなく、各論にこだわってはいないのですが、開隆堂にはそういう捨てがたいところがあるということです。

教育委員長

どちらを採られますか。甲乙付けがたいのですが、何しろ決めなければなりませんので。

教育委員

東京書籍の料理の実習例は、先ほど委員もおっしゃいましたが、作り方もきちんと書いてありますし、メニューも豊富で、丁寧なのかなと思います。技術もそうですが、家庭も「身の回りのことをちゃんとできるようになる

う」ということを、小学校より少しレベルアップしたところですから、そういう意味では的を射ているという感じはします。

それから、先ほど教育委員長から地域や家庭のことを先にすべきであるという学習指導要領の話がありましたが、調査委員のお話で「ああ、なるほど」と思ったのは、ここに出てくる家庭や地域は結構レベルの高い話だということです。それを1年生でするかどうかは分かりませんが、そういう意味では触りの部分で小学校からのつながりというような東京書籍の作り方は、配慮されているなという感じがしました。中1レベルで「お父さんが育児休暇を取って」という話を理解するのは難しいように思いますし、そういう意味で調査委員の先生がおっしゃったことは、やはり的を射ていると思いました。

教育委員長

確かに甲乙付けがたいのですが、ちょっとこだわっているのが、先ほど質問した学習指導要領とのかかわりです。ほかの出版社は家族・家庭から入っているものが多いのですが、東京書籍は食から入っています。家庭分野の目標が自立にあることは採択委員長もおっしゃったとおりです。そこで、自立を何から考えればよいかということですが、私は家族・家庭の中での立場や意見調整から、自分が自立していく必要があるという導入の仕方がよいと考えています。学習指導要領で最初にそれを教えるべきと指摘しているのは、多分そういう観点からだろうと推測しました。

そういう面から言うと、食から入る別の理由もあるのですが、家庭の科目を学習する目標が自立にあり、それにつながっていくスタートとしては家族・家庭から入っていくのが適切かと思っており、その1点から、開隆堂の方がいいと思っています。これも意見が分かれましたが、いかがでしょうか。

教育委員

先ほどのご意見にもあったように、東京書籍は着物のたたみ方やスナップの付け方等、私もやってみなければいけないと思うようなことがたくさん書いてありました。東京書籍の方が分かりやすくいいのではないかと思います。

教育長

私も開隆堂に惹かれるところはありますが、基本的な部分をうまく押さえているということで、東京書籍を推したいと思います。

教育委員

開隆堂のコラムは本当にいいなと思いますが、食べ物から入るとするのは、やはりやさしいような気がします。私たちは食べ物がなければ、自立しようにも自立できません。食糧がなければ何もできないので、食べ物が第一かなと思いますし、小学校からの続きですから、あまり難しいことをするより、積み重ねていって、最後に家族の大切さや地域に結び付けた上で、もう一度世界に視点を広げ、その後、自分自身のところへ戻ってくるように教えてほしいです。先生の技術に託したいと思います。

教育委員長

それでは東京書籍を採択するご意見が多いということで、家庭も東京書籍を採択したいと思います。

確認しますが、技術・家庭の中の技術は東京書籍、家庭も東京書籍を採択したいと思います。

種目「英語」

[英語：説明の概要（採択委員長）]

英語については6者から出版されている。学習指導要領との関係で時数が相当増え、各者ともかなり分厚くなり、特に読む教材は量的に充実したと考えている。

その中で金沢スタンダードを考えると、読んで理解するのは当然のことで、その上で発信する力を準備させていくことが問われている。2番目として、グローバル化が進む中で英語という外

国語を通じて異文化の考え方を身に付けていくことが問われている。その場合、必ずしも英語圏だけではない。それと同時に金沢スタンダードでは日本や金沢を中心とする身の回りの文化を異なる文化を持った人たちに発信していくことが強調されており、そのための教材がどこまで準備されているかという点が評価基準になった。

その中で相対的に充実した内容を持っているものとして開隆堂、それに次ぐものとして東京書籍という評価になった。具体的には、開隆堂はいろいろな意味で広い興味に対応できるよう、教材が幅広く配置されている。また、4 技能（読む、書く、聞く、話す）を丁寧に伸ばしていくという意味で、基礎的な部分から発展的な部分まで指導する手順が明確に示されていて、教えやすいという評価を得た。

また、どの教科書も生徒が親しみやすく英語を学ぶ上で、キャラクター設定がされているが、学んでいく主体は日本の生徒なので、日本人が中心になるのは当然である。その中で、欧米の英語圏だけではなく、インドや韓国等のキャラクターが幅広く登場してくる。グローバルなコミュニケーションツールとしての英語、あるいはそういうものを通じてさまざまな文化に接したり、日本の文化を発信していくためのツールが割合多様に配置されており、そういうところが相対的に高く評価された。

東京書籍についても基礎基本から発展的な内容まで配列されている。また、これはどこでもそうであるが、リーディングのための教材が相対的に充実している点を含めて評価した。

これら 2 者は他の 4 者に比べて相対的評価が高かったわけだが、その中で、決め手というほどではないかもしれないが、豊富な教材をもって異文化理解という点から言うと、たまたま開隆堂の判はほかに比べて一回り大きい。それによってコラムや図版を含めて充実した内容になっているのではないかということで、全体として最も高い評価を採択委員会の中で与えられた。

[英語：質疑応答]

教育委員長

ご説明に対する質問ではないのですが、学校研究委員会の意見と調査委員会の意見が異なっています。学校研究委員会の資料 B を見ると、学校研究委員会としては東京書籍のものをある程度よしとする意見が多くなっています。資料 B の中で、英語の「金沢市や生徒の実状に即し、主体的に学習するための工夫がなされている」という項目の中で、東京書籍の一番上に「金沢市の実状に即した『スピーチ原稿』の扱い」で、七つの意見がよしとされているのですが、スピーチ原稿の扱いが何であるかが分かりませんでした。学校の先生方はここを非常に大きく評価されて、東京書籍を推しているように見えるのですが、これについて説明していただけませんか。

これは学校の意見ですので、調査委員や採択委員の皆さんに質問すべきことではありませんが、お分かりになるようでしたらお願いします。

事務局

それでは調査委員からお答えします。

英語調査委員

今の学校からの意見については、表現させる単元、または表現する題材についてのご意見かと思えます。東京書籍のニューホライズンは自分の町の紹介、文化の紹介といった題材が取り上げられています。また、修学旅行の題材も取り上げられていて、多くの学校で修学旅行を題材にスピーチを作っているという現状があるために、東京書籍を推す声が多かったのではないかと思います。

開隆堂にもよく似た単元がありますが、文化紹介や修学旅行は取り上げられていないため、東京書籍にそういう意見が多くなったように思われます。

教育委員長

そのことが評価に関して、かなりウェートを占めると考えられるのでしょうか。

採択委員長

「金沢市の実状に即した『スピーチ原稿』』というところまでは話に出ていませんが、地元というか、自分の身の回りの文化を発信することが大事であることはスタンダードでも言われています。その辺について採択委員会では、「金沢市内の中学生には『This is Kanazawa』という副読本が配られていて、それを通じて金沢の文化を自分たちが理解し、英語で表現するようになっている。そういった独自の教材を教科書以外に持っているの、その部分についてはそちらを使っていけばよい」という議論が出ています。『This is Kanazawa』については、私も作成時に多少意見を述べる立場にありましたが、これは特区だった時期に、金沢では小学生のころから英語をやったり、いろいろなことをしているのですが、その中でこんな副読本もあったということです。そういう意味で、その部分は教科書以外でカバーできるのではないかと議論は採択委員会でありました。

また、発信していくという意味で言えば、技術的には書いて話せるのが理想だろうと思いますが、実はその前提としてリスニングもあるので、その辺の技術的な問題についてはどこも扱っていません。

金沢では、英語の DVD 教材のようなものを作ったこともありますが、それが現場でどの程度使われているかということまでは承知していません。しかし、地元の教材を使って教科書を補っていくことはできるのではないかと話した採択委員会でも出ました。

教育委員

開隆堂の教科書は付録が非常に充実しています。物語もあって、日英で練習をしようと思えばできるようになっています。付録について、これがあるからというご意見は出たのでしょうか。

採択委員長

そこまでは出ていません。ほかの教科書もそうですが、教科書にどんどん書き込んでいく配慮がされています。われわれのように年を取った世代には多少抵抗のある部分でしたが、教科書に余白を広く取って、そこにどんどん書き込んでいくのが今の主流のようです。「そういう大きな流れに対して配慮があるのは、いいことではないか」という話は出ていました。

教育委員

教科書とは関係ないのですが、いつごろからこのような紹介の仕方になったのか、教えてほしいのです。今はどの教科書もすべて日本語と同じ語順で「My name is 」となっています。いいことだとは思いますが、学年が上がってきて、英語を言語として使うようになると、これでは相手の人は が私のファミリーネームだと思ってしまいます。開隆堂には高学年になってから、ファーストネームとラストネームがあることを少し示していますが、このような順番に姓名を表記し始めたのはいつごろからでしょうか。

事務局

調査委員の方にも聞いてみましたが、詳細は分からないということでした。ただ、最近はそのような言い方が流れになってきているそうです。

採択委員長

大きなテーマから言えば、文化をどのように紹介するか、あるいは自分から発信していく、理解するということにかかわるのだと思います。ファミリーネームが先になったり、そもそもファミリーネームを持っていない人たちや、ロシアのように父称があって、世代とともに微妙に変わっていく名前もあります。言語とは別に、そういう多様性というものに気付いてほしいということでは、それぞれの教科書がそれなりに配慮していると思います。しかし、同じキャラクターの中に韓国人が出てきたり、インド人が出てきたり、中国人が出てきたりという形で、積極的にやるうとしているという意味では、開隆堂はそういうスタンスがやや強い教科書かなと思いました。

教育委員

外国語の習得は、ますます大切になっています。学校でも英語の時間は増

えているとはいえ、生徒たちは英語とは全く関係のない日常生活を送っています。おうちに帰って英文の音を聞きたいなと思ったときのために CD が付いているのでしょうか。付いていなければ全員に配られるのでしょうか。教育の現場では生徒たちに CD を渡すなどしていらっしゃるのでしょうか。

事務局

基本的に全員に何かを配るということは考えていませんが、希望すれば配付はできるかと思っています。

教育委員

具体的にどのくらいの生徒が外国語の音に対して熱心で「先生、CD が欲しいです」と言ってくるのでしょうか。

事務局

それでは調査委員からお答えします。

英語調査委員

どの学校でも音声 CD の販売を行っています。現場にいる者の感覚としては、およそ 3 割の生徒が購入しています。学校で焼いてということになると、著作権の問題もありますから。

採択委員長

その辺は採択委員会でも若干議論になりました。音楽もそうですが、教科書だけで教育内容がカバーされているかということ、必ずしもそうではありません。ただ、少なくとも採択委員会では、その種の教材は間に合っていないというのが実状で、参考にすることはあきらめざるを得ません。とにかく評価は教科書だけでやりましょうということです。

ついでにご紹介すると、日本語を使って英語を教えるというのは、世界的にも珍しいようです。多くの国では、英語の教科書には英語以外の言語は出てきませんが、日本ではどの英語の教科書も基本的に日本語で書かれています。これがいいとか悪いと言っても始まりませんが、そんな中でも章の見出しが中学 1 年生の頭から英語でできているもの、1 年後半からのもの、2 年生になって初めて見出しが英語になるものといろいろです。開隆堂や東京書籍は割合早い段階で見出しが英語になっています。教科書に英語の部分が多くなる方が、英語の教育としては本当なのかなという議論は若干ありました。ただ、決め手になるほどの意見ではありませんでした。

教育委員

今のご説明に関連しますが、国の方針として、なるべく外国語はその言語で教えていく方向へと言っています。どの教科書を見せていただいても、とても無理なように思いました。先生の負担がすごく重く、しかもそうしたからといって、生徒たちがよく理解するということではなさそうです。この英語を英語で教えることに関し、先生方も現場でとても悩んでおられると思いますが、これからどんな方向に向かう動きがあるのでしょうか。いろいろご苦労があると思いますが、先生たちは例えばどんな勉強会をなさっているのでしょうか。

採択委員長

そこまでの議論は、われわれの委員会の範囲を超えるので、あまり議論したわけではありませんが、1 億 2000 万人が日本語だけでコミュニケーションできるというのは、ある意味では大変いいことです。外国に行くと「日本人はなんで英語が下手なんだ」と言われますが、そんなときは「日本ではシェークスピアだって全部日本語で読めるんだ」と言っています。いい点と悪い点があって、外国語をその外国語だけで学ぶのは、どうやっても日本の言語状況の中では困難でしょう。今度から小学校で英語を学ぶようになって、学習指導要領も変わってくるでしょうが、この問題は今後も課題として存在すると思います。

採択委員会とは全く別の話ですが、教科書に使われている英語の文をネイティブの方に見ていただいたところ、相当違和感があったようです。「教科書によって、どのくらい差があるのですか」とお尋ねしたところ、「どの教

科書も同じぐらいたくさんあります」ということでした。この話は採択委員会に出ましたが、今日のご報告していません。

そういう意味では、日本の英語教育の限界は、既にいろいろなところであるのだろうと思っています。これは残念ながらヒアリング等の教材も含めて、採択委員会としては議論していませんが、現場の先生方への意見を反映させていただければとは考えています。

教育委員長

よろしいでしょうか。それでは採択に入ります。採択委員と準備委員の皆さま、長い間ありがとうございました。

(採択委員、調査委員 退席)

[英語：審議]

教育委員長

それでは英語の採択の議論に入りたいと思います。

教育長

開隆堂の3年生の6ページには「有名人にインタビューしよう」「伝統文化を説明しよう」「自己PRしよう」と大きな目標が載っていて、横に1~2年生で学習したマイプロジェクト(「自己紹介しよう」「人を紹介しよう」「どんどん質問しよう」)が載っています。この教科書は、これらの目標に向かってそれぞれの単元があるという作りになっているので、1年から3年まで見通しを持って、どういう力を付けていくのかが明確にされているような気がします。

それぞれの単元にも、それぞれの目標が分かりやすく書いてあり、いいように思いました。金沢の場合、金沢の町のことを英語で語れるようにしようという英語の最終目標があるので、その流れにも合うかと思います。マイプロジェクトには「伝統文化を説明しよう」というものがあるので、『This is Kanazawa』を絡めて使っていくことができるのではないかと考えています。

最後に長文がいくつかありますが、いろいろな分野のことを英語で学んで、英語の中からまたいろいろな感性が生まれるのではないかと思いました。ちょっとしたことですが、音読した回数を書く欄があります。東京書籍にもいい点がありますが、全体として開隆堂がいいのではないかと感じました。

教育委員

開隆堂の文法的なまとめは先生方も使いやすいのではないかとと思います。ほかの教科書にも、それぞれまとめは載っていますが、ぱっと見たときに生徒たちと一緒に、「こんな文章の構成になっています」というものが載っていた方がよいように思います。本当は、載せずに、何度も文を聞いてもらって音から理解するのが理想なのでしょうが、そんなことをやっていたら間に合わないでしょうね。だから文の構造をツールとして使っていくのであれば、先生方にとって開隆堂の教科書が使いやすいでしょうね。開隆堂を推薦したいと思います。

教育委員

二つの順序で推薦が出ていますが、東京書籍の方が難しくなさそうな気がしないでもないです。実際にリスニングをどのような形で授業の中で行うのか、要はどちらを使っても、どういう教育をするかということだと思います。

教育委員

細かいことを言うようですが、今、日本の英語の教科書は、アメリカ英語ですよね。1年生ではcanの使い方として、Can youは「～していただけませんか」、Can Iは「～してもいいですか」と紹介していますが、私にはとても違和感があります。こんな風に心配していたら、2年生か3年生に、「May Iの方がいい」ことや、「Could Iを使いましょう」と書かれていました。強く言っているわけではありませんが、フォローアップがあったので少し安心しました。開隆堂の本では、ほかのどの本よりフォローアップが強い形で出

ていたので、そこもいいと思います。

本当に小さなことかもしれませんが、私たちがどんな英語を使うかは、世界に出ていったときに大切です。「あなたはどこで英語を習いましたか」といつも言われます。特に私はイギリスにいたので、アメリカ英語をよくからかわれました。「Could I」や「May I」が使えるようになるまで指導してほしいと思います。その点で開隆堂を推したいと思いました。

教育委員

私はあまり英語が得意な方ではないのですが、開隆堂の方が練習問題がたくさんあるので、自分から勉強したいと思ったときには、この教科書の方が使いやすいと思いました。練習問題もカラフルでやりやすくなっているという点で、開隆堂の方がいいと思いました。

教育委員

私も開隆堂でよいと思います。大判であることもあって、詰め込み感がなく、見やすい構成になっています。また、マイプロジェクトが3年間を通じてありますが、特に1年生のときには一つの單元ごとに確認していて、日常的な振り返りがやりやすい形になっているように思います。

巻末資料に関しては、何かといろいろな場面で役立ちそうだなと思って見ていました。そういうことから、開隆堂でよいと思います。

教育委員長

開隆堂を推すご意見が多いようです。私も開隆堂の方が先生にとっても教えやすいと思いました。ページごとに4技能(書く、聞く、話す、使うこと)について細かく出ていますし、マイプロジェクトでは自分を表現することをかなり大きなテーマとして取り上げています。また、エクササイズが多く、力を付けていくにはより適しているような感じがします。

それでは、英語は開隆堂を採択するというところでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

これですべての教科が終わりました。採択した出版社を確認したいと思います。国語は光村図書出版、書写は光村図書出版、地理は東京書籍、地図は帝国書院、美術は光村図書出版、歴史は東京書籍、公民は東京書籍、数学は東京書籍、保健体育は学研教育みらい、理科は啓林館、音楽(一般)は教育芸術社、音楽(器楽合奏)は教育芸術社、技術は東京書籍、家庭は東京書籍、英語は開隆堂出版とします。

これをもちまして、平成23年度第7回定例会議を終了したいと思います。長時間にわたり、ありがとうございました。